

第4章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住年数
 - (2) 定住・転出意向
 - (3) 定住意向理由
 - (4) 転出意向理由
-

1 定住性

(1) 居住年数

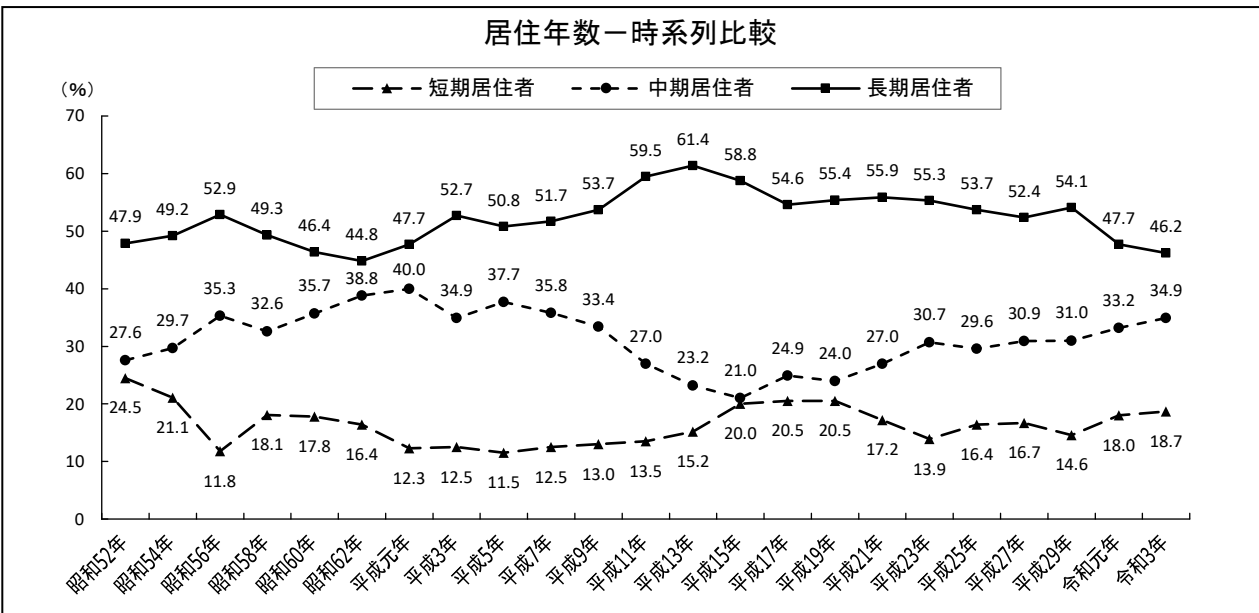
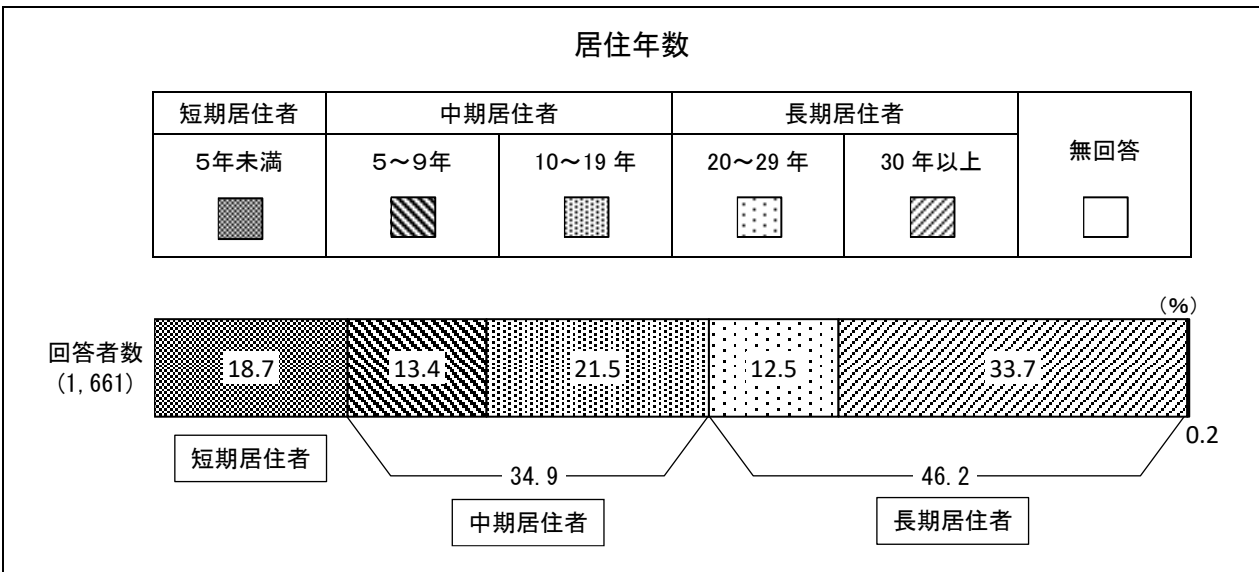
◇《長期居住者》は4割台半ば

問1	あなたは、江東区に住んで何年になりますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,661)				
1	5年未満	18.7%	4	20～29年	12.5%
2	5～9年	13.4%	5	30年以上	33.7%
3	10～19年	21.5%		無回答	0.2%

居住年数については、「20～29年」(12.5%)と「30年以上」(33.7%)の2つを合わせた《長期居住者》(46.2%)が4割台半ばとなっている。「5～9年」(13.4%)と「10～19年」(21.5%)の2つを合わせた《中期居住者》(34.9%)は3割台半ば、「5年未満」の《短期居住者》(18.7%)は2割近くとなっている。

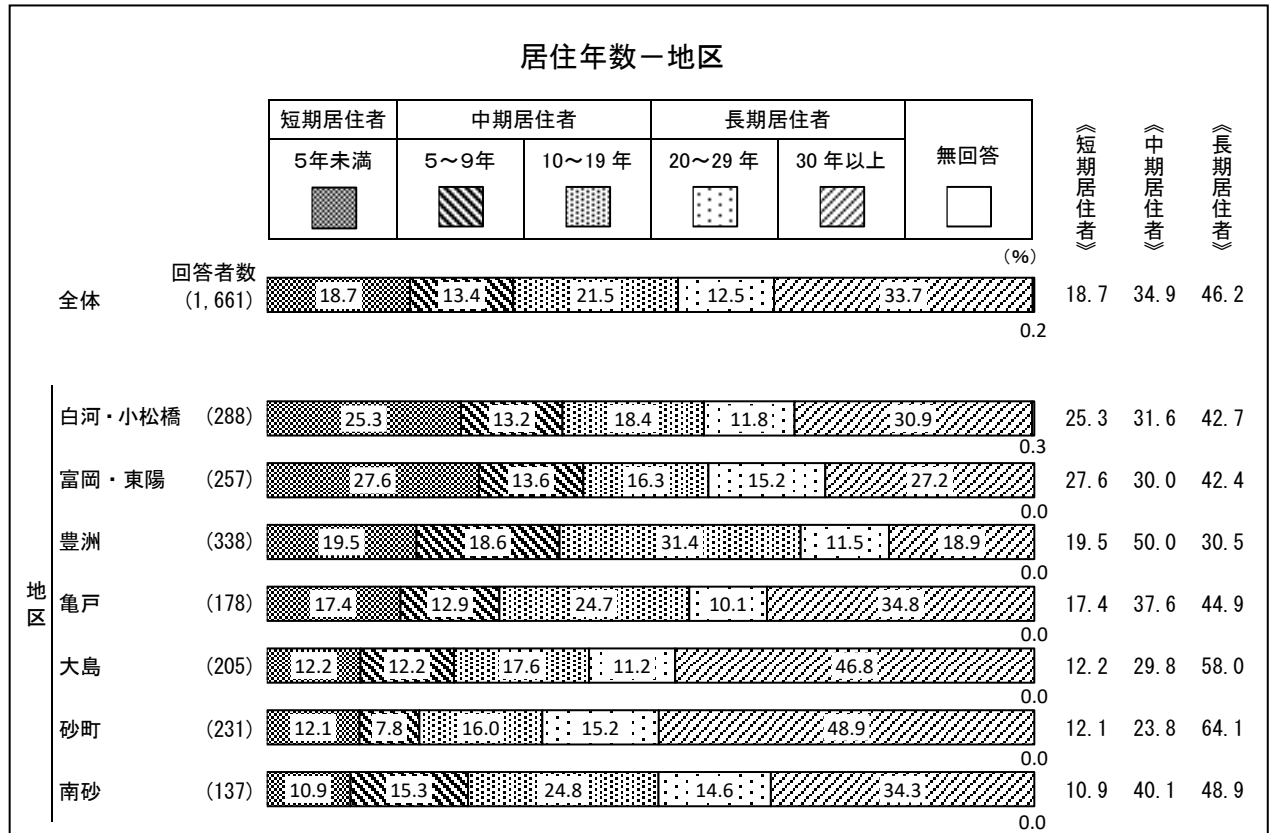
時系列の変化をみると、令和元年以降、《長期居住者》は減少し、《中期居住者》と《短期居住者》が増加している。

第4章
調査結果の分析
1 定住性



居住年数－地区

地区でみると、《長期居住者》は砂町地区で6割台半ばとなっている。一方、《短期居住者》は富岡・東陽地区で3割近くとなっている。

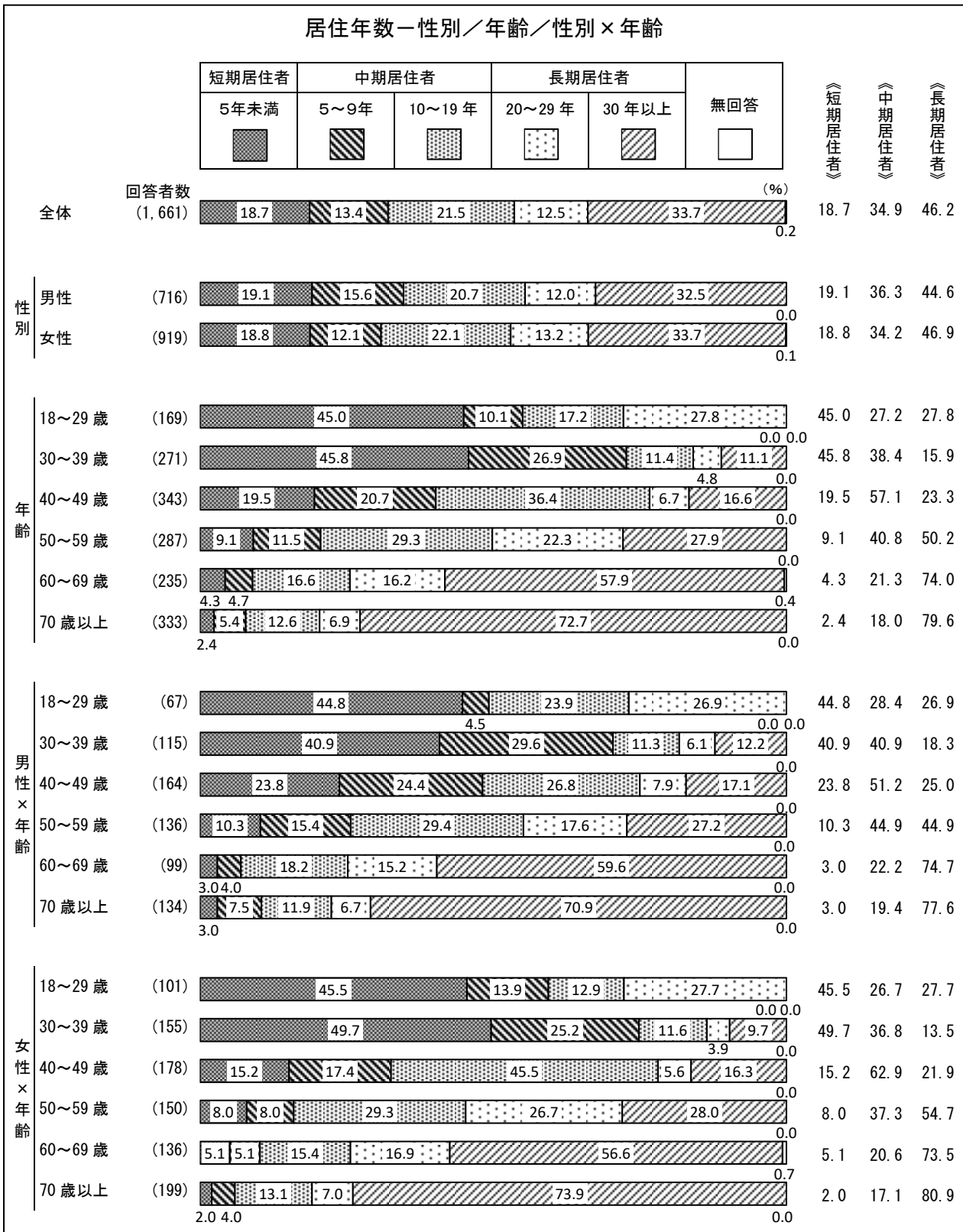


第4章 調査結果の分析
1 定住性

居住年数－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、大きな差は見られない。

性別×年齢でみると、《短期居住者》は女性 30～39 歳で5割となっている。《中期居住者》は女性 40～49 歳で6割を超え、《長期居住者》は女性 70 歳以上でほぼ8割となっている。



第4章
調査結果の分析
1 定住性

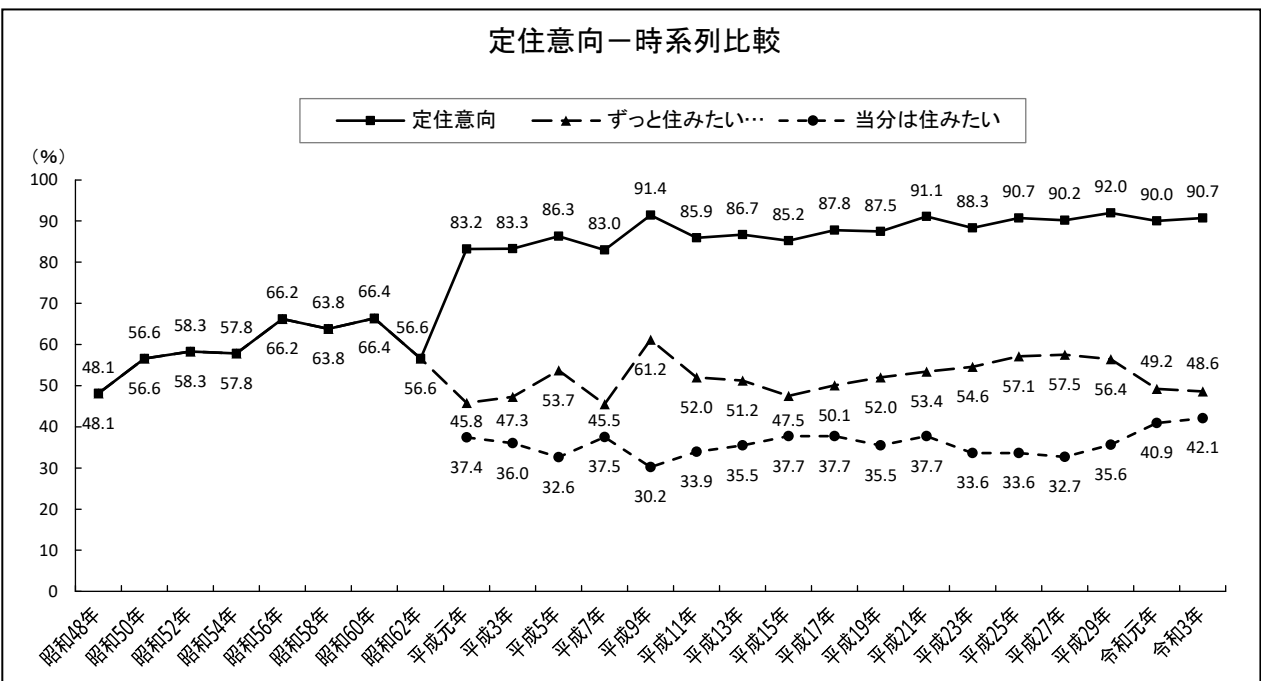
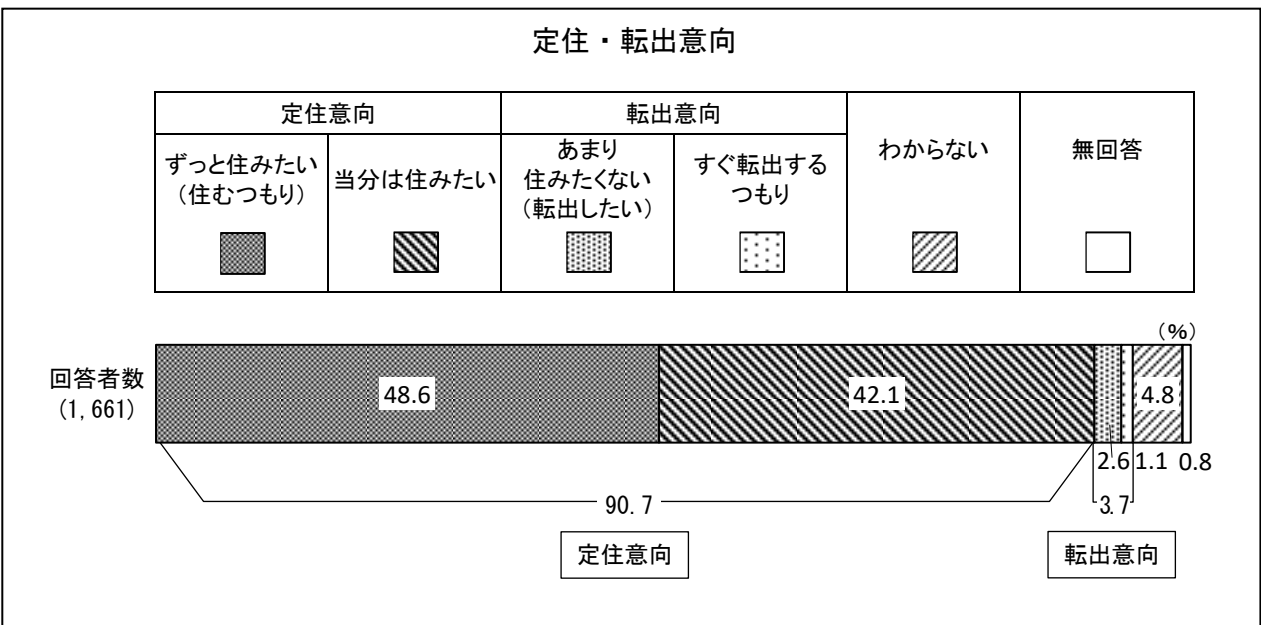
(2) 定住・転出意向

◇《定住意向》はほぼ9割

問2	あなたは、これからも江東区に住みたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(回答者数=1,661)				
1	ずっと住みたい (住むつもり)	48.6%	4	すぐ転出するつもり	1.1%
2	当分は住みたい	42.1%	5	わからない	4.8%
3	あまり住みたくない (転出したい)	2.6%		無回答	0.8%

定住・転出意向については、「ずっと住みたい (住むつもり)」(48.6%)と「当分は住みたい」(42.1%)の2つを合わせた《定住意向》(90.7%)はほぼ9割となっている。一方、「あまり住みたくない (転出したい)」(2.6%)、「すぐ転出するつもり」(1.1%)はわずかとなっている。

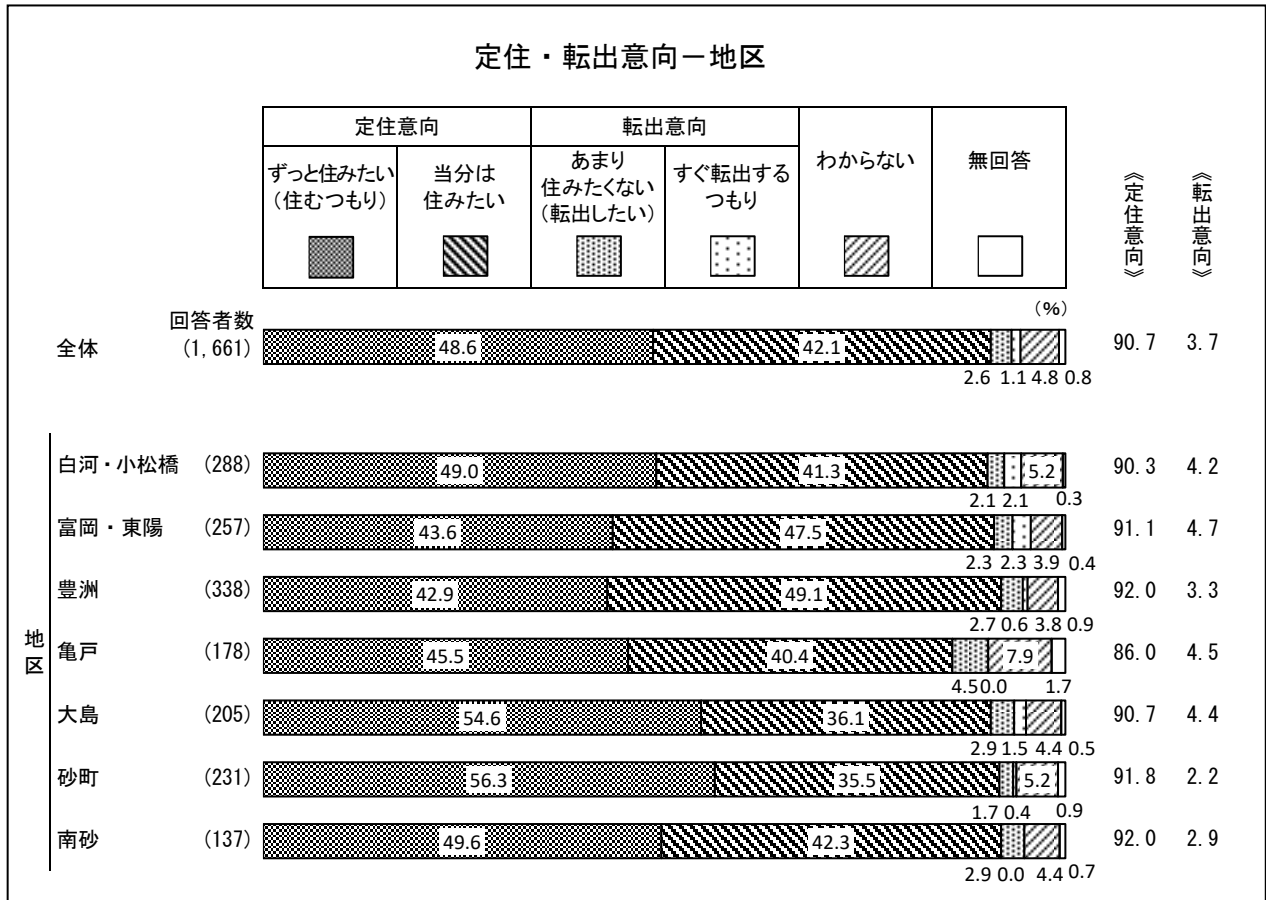
時系列の変化をみると、《定住意向》は平成25年から9割以上となっている。



第4章 調査結果の分析
1 定住性

定住・転出意向一地区

地区で見ると、《定住意向》は亀戸地区が8割台半ば、その他の地区はすべて9割台となっている。一方、《転出意向》はすべての地区でわずかとなっている。

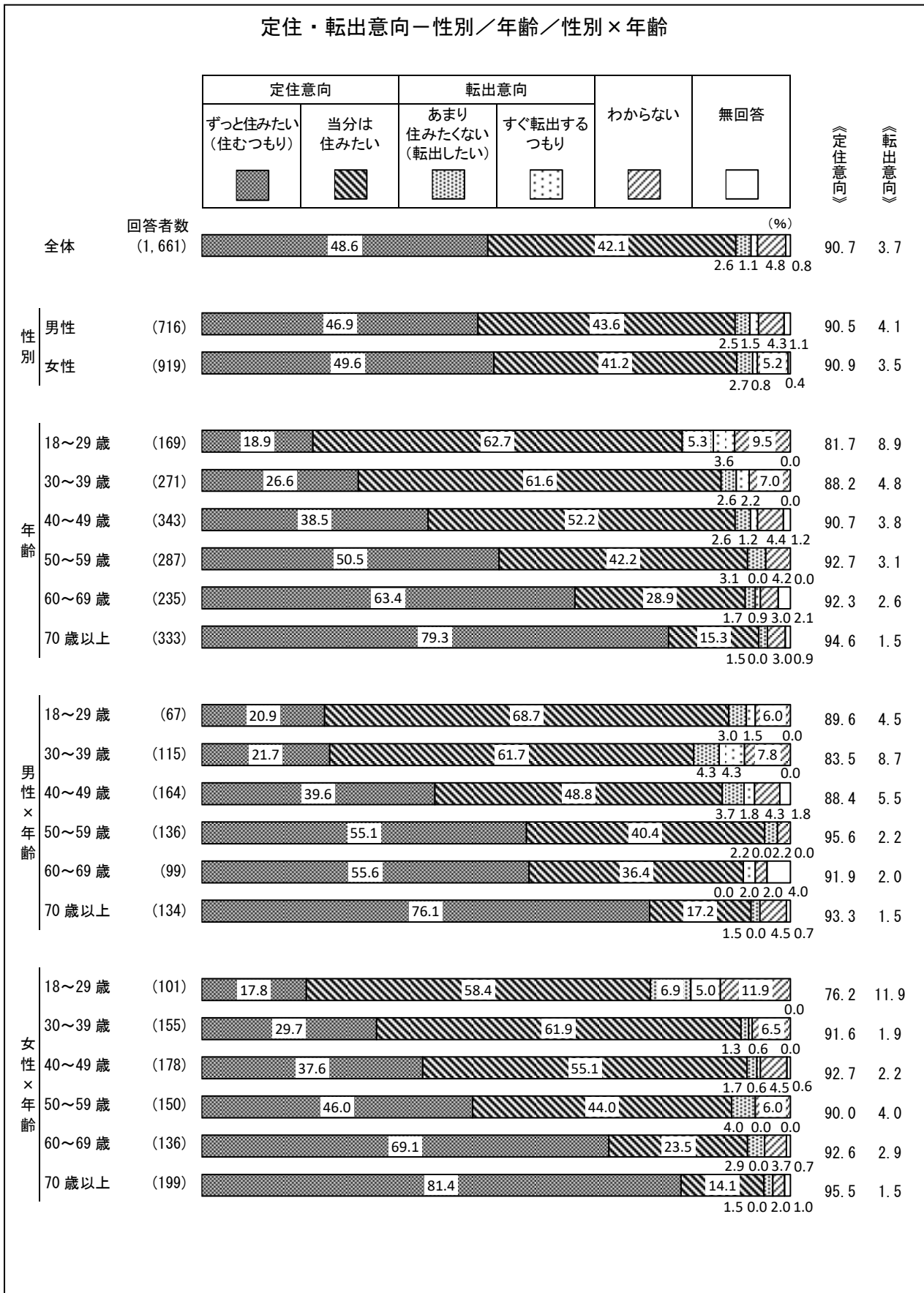


第4章
調査結果の分析
1 定住性

定住・転出意向－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、大きな差は見られない。

性別×年齢でみると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、女性70歳以上で8割を超えている。



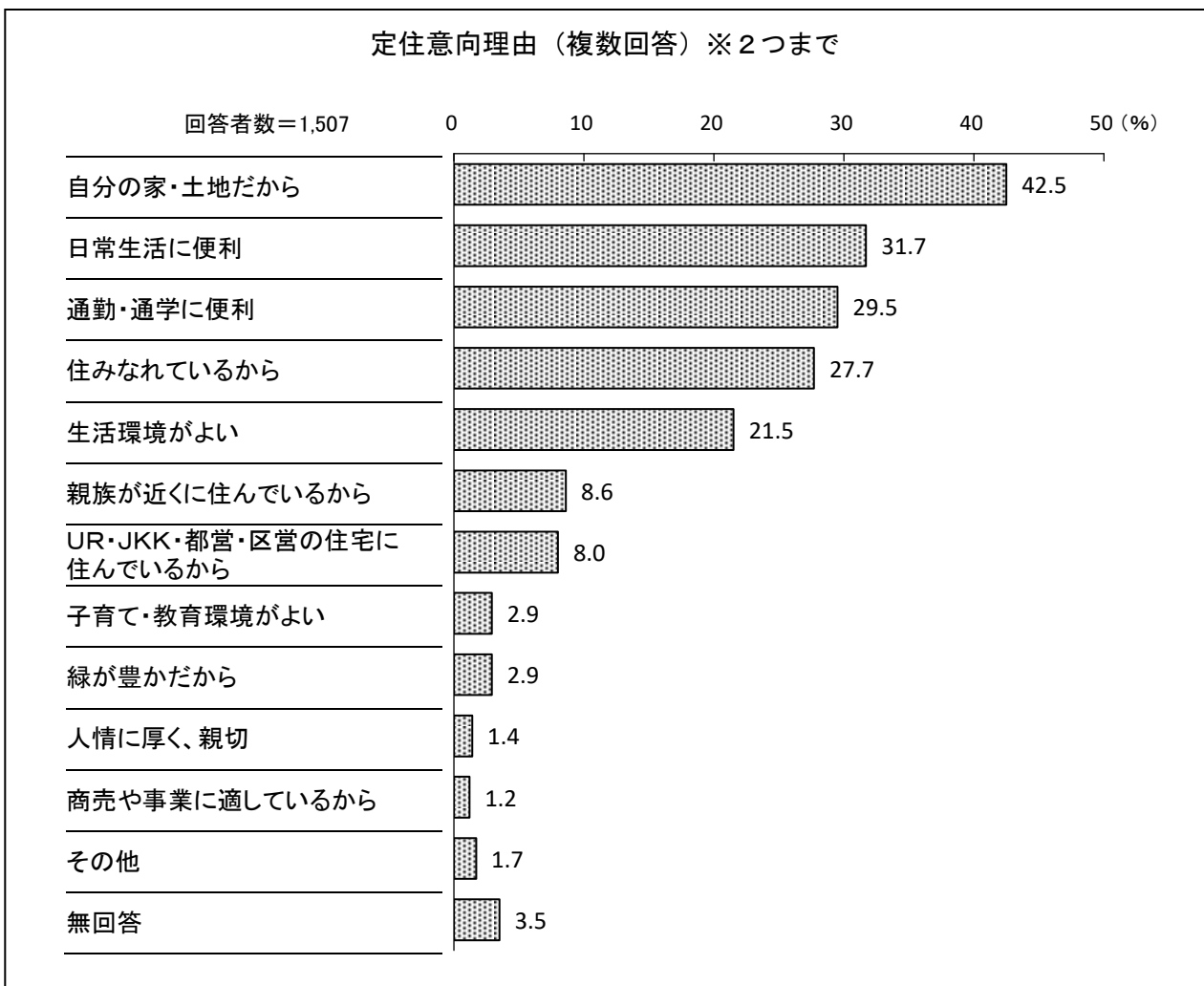
第4章 調査結果の分析 1 定住性

(3) 定住意向理由

◇「自分の家・土地だから」が4割を超える

問2-1	(問2で、「1 ずっと住みたい(住むつもり)」か「2 当分は住みたい」とお答えの方に) あなたが、これからも江東区に住みたい理由は何ですか。 次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,507)				
1	自分の家・土地だから	42.5%	7	人情に厚く、親切	1.4%
2	商売や事業に適しているから	1.2%	8	住みなれているから	27.7%
3	通勤・通学に便利	29.5%	9	親族が近くに住んでいるから	8.6%
4	生活環境がよい	21.5%	10	緑が豊かだから	2.9%
5	子育て・教育環境がよい	2.9%	11	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから	8.0%
6	日常生活に便利	31.7%	12	その他	1.7%
				無回答	3.5%

定住意向理由については、「自分の家・土地だから」(42.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「日常生活に便利」(31.7%)、「通勤・通学に便利」(29.5%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

定住意向理由－地区

地区で見ると、第1位はすべて「自分の家・土地だから」となっており、砂町地区では5割近くとなっている。「住みなれているから」は砂町地区で4割、「日常生活に便利」は富岡・東陽地区、亀戸地区、南砂地区で3割台半ば、「通勤・通学に便利」は白河・小松橋区、富岡・東陽地区で3割台半ばとなっている。

定住意向理由－地区（上位5項目）

		(%)				
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,507	自分の家・土地だから 42.5	日常生活に便利 31.7	通勤・通学に便利 29.5	住みなれているから 27.7	生活環境がよい 21.5
地区	白河・小松橋	自分の家・土地だから 42.7	通勤・通学に便利 34.6	住みなれているから 30.0	生活環境がよい 29.2	日常生活に便利 28.1
	富岡・東陽	自分の家・土地だから 41.0	通勤・通学に便利／日常生活に便利 36.3	生活環境がよい 22.6	住みなれているから 21.8	
	豊洲	自分の家・土地だから 38.9	通勤・通学に便利 30.9	生活環境がよい 30.5	日常生活に便利 28.3	住みなれているから 22.2
	亀戸	自分の家・土地だから 47.1	日常生活に便利 35.3	通勤・通学に便利 32.0	住みなれているから 28.1	生活環境がよい 11.8
	大島	自分の家・土地だから 40.9	日常生活に便利 33.9	住みなれているから 30.1	通勤・通学に便利 26.3	生活環境がよい 15.1
	砂町	自分の家・土地だから 48.6	住みなれているから 40.1	日常生活に便利 29.2	通勤・通学に便利 18.4	生活環境がよい 14.6
	南砂	自分の家・土地だから 40.5	日常生活に便利 35.7	通勤・通学に便利 27.8	住みなれているから 23.0	生活環境がよい 16.7

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「日常生活に便利」は女性の方が男性より10ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「自分の家・土地だから」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなっている。「通勤・通学に便利」は女性18～29歳で5割を超えている。

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,507	自分の家・土地だから 42.5	日常生活に便利 31.7	通勤・通学に便利 29.5	住みなれているから 27.7	生活環境がよい 21.5
性別	男性	648	自分の家・土地だから 42.9	通勤・通学に便利 32.1	住みなれているから 28.7	日常生活に便利 26.5	生活環境がよい 23.6
	女性	835	自分の家・土地だから 42.3	日常生活に便利 36.0	通勤・通学に便利 28.0	住みなれているから 26.9	生活環境がよい 20.1
年齢	18～29歳	138	通勤・通学に便利 48.6	住みなれているから 35.5	生活環境がよい 26.8	日常生活に便利 26.1	自分の家・土地だから 24.6
	30～39歳	239	通勤・通学に便利 45.6	生活環境がよい 29.7	日常生活に便利 28.5	自分の家・土地だから 27.6	住みなれているから 15.9
	40～49歳	311	通勤・通学に便利 44.1	自分の家・土地だから 40.5	日常生活に便利 29.3	生活環境がよい 24.8	住みなれているから 19.0
	50～59歳	266	自分の家・土地だから 44.4	通勤・通学に便利／日常生活に便利 32.7	住みなれているから 25.6	生活環境がよい 22.9	
	60～69歳	217	自分の家・土地だから 63.6	住みなれているから 36.4	日常生活に便利 34.1	通勤・通学に便利 14.7	生活環境がよい 13.4
	70歳以上	315	自分の家・土地だから 47.6	住みなれているから 37.8	日常生活に便利 36.8	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 17.5	生活環境がよい 14.9
	男性×年齢	18～29歳	60	通勤・通学に便利 43.3	住みなれているから 35.0	日常生活に便利 28.3	生活環境がよい 25.0
30～39歳	96	通勤・通学に便利 47.9	自分の家・土地だから 32.3	生活環境がよい 29.2	日常生活に便利 22.9	住みなれているから 19.8	
40～49歳	145	通勤・通学に便利 43.4	自分の家・土地だから 42.8	日常生活に便利 26.2	生活環境がよい 25.5	住みなれているから 22.1	
50～59歳	130	自分の家・土地だから 42.3	通勤・通学に便利 37.7	生活環境がよい 29.2	日常生活に便利 26.2	住みなれているから 25.4	
60～69歳	91	自分の家・土地だから 60.4	住みなれているから 37.4	日常生活に便利 24.2	通勤・通学に便利 22.0	生活環境がよい 13.2	
70歳以上	125	自分の家・土地だから 48.8	住みなれているから 37.6	日常生活に便利 30.4	生活環境がよい 18.4	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 16.0	
女性×年齢	18～29歳	77	通勤・通学に便利 51.9	住みなれているから 36.4	生活環境がよい 28.6	自分の家・土地だから／日常生活に便利 24.7	
	30～39歳	142	通勤・通学に便利 44.4	日常生活に便利 32.4	生活環境がよい 30.3	自分の家・土地だから 24.6	住みなれているから 12.7
	40～49歳	165	通勤・通学に便利 44.2	自分の家・土地だから 38.8	日常生活に便利 32.1	生活環境がよい 23.6	住みなれているから 16.4
	50～59歳	135	自分の家・土地だから 46.7	日常生活に便利 39.3	通勤・通学に便利 28.1	住みなれているから 25.9	生活環境がよい 17.0
	60～69歳	126	自分の家・土地だから 65.9	日常生活に便利 41.3	住みなれているから 35.7	生活環境がよい 13.5	通勤・通学に便利 9.5
	70歳以上	190	自分の家・土地だから 46.8	日常生活に便利 41.1	住みなれているから 37.9	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 18.4	生活環境がよい 12.6

第4章 調査結果の分析 1 定住性

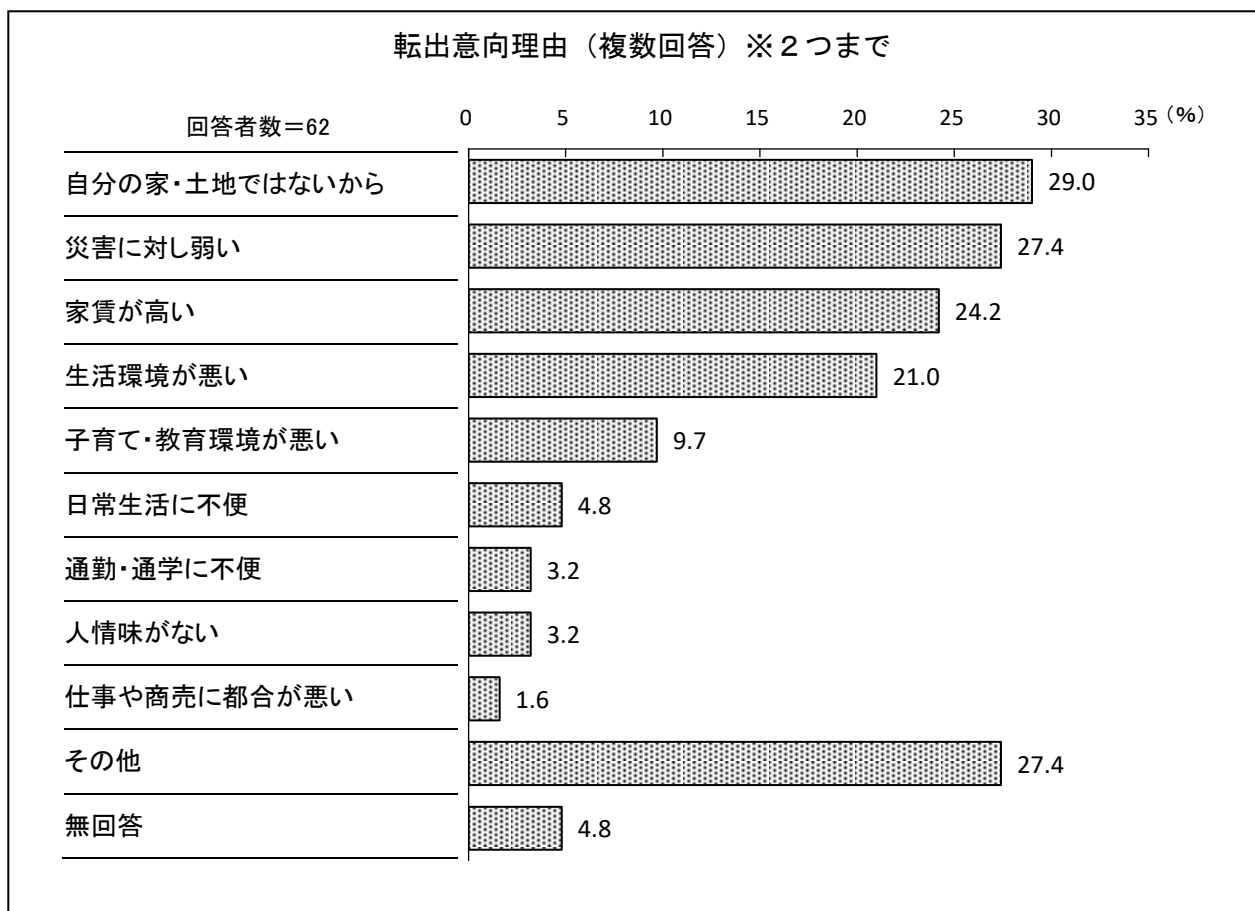
(4) 転出意向理由

◇「自分の家・土地ではないから」がほぼ3割

問2-2	(問2で、「3 あまり住みたくない(転出したい)」か「4 すぐ転出するつもり」とお答えの方に) あなたが、江東区に住みたくない理由は何ですか。次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。 (回答者数=62)				
1	自分の家・土地ではないから	29.0%	6	日常生活に不便	4.8%
2	仕事や商売に都合が悪い	1.6%	7	人情味がない	3.2%
3	通勤・通学に不便	3.2%	8	災害に対し弱い	27.4%
4	生活環境が悪い	21.0%	9	家賃が高い	24.2%
5	子育て・教育環境が悪い	9.7%	10	その他	27.4%
				無回答	4.8%

転出意向理由としては、「自分の家・土地ではないから」(29.0%)がほぼ3割で最も多く、次いで「災害に対し弱い」(27.4%)、「家賃が高い」(24.2%)と続いている。

第4章
調査結果の分析
1 定住性



2 防災対策

-
- (1) 震災時の不安
 - (2) 震災時の備え
 - (3) 家庭内で準備している防災用品・用具
 - (4) 防災対策への要望
-

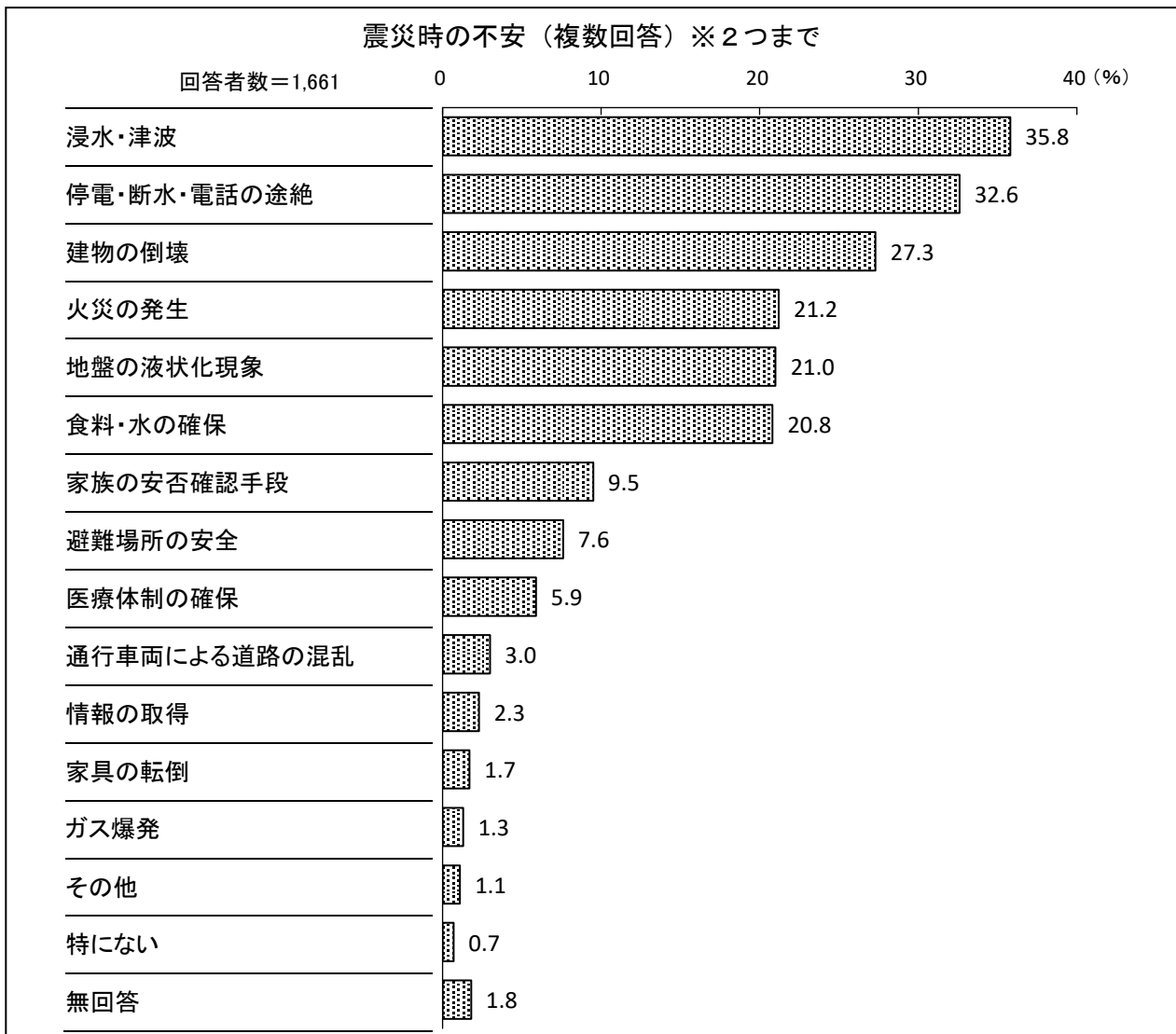
2 防災対策

(1) 震災時の不安

◇「浸水・津波」が3割台半ば

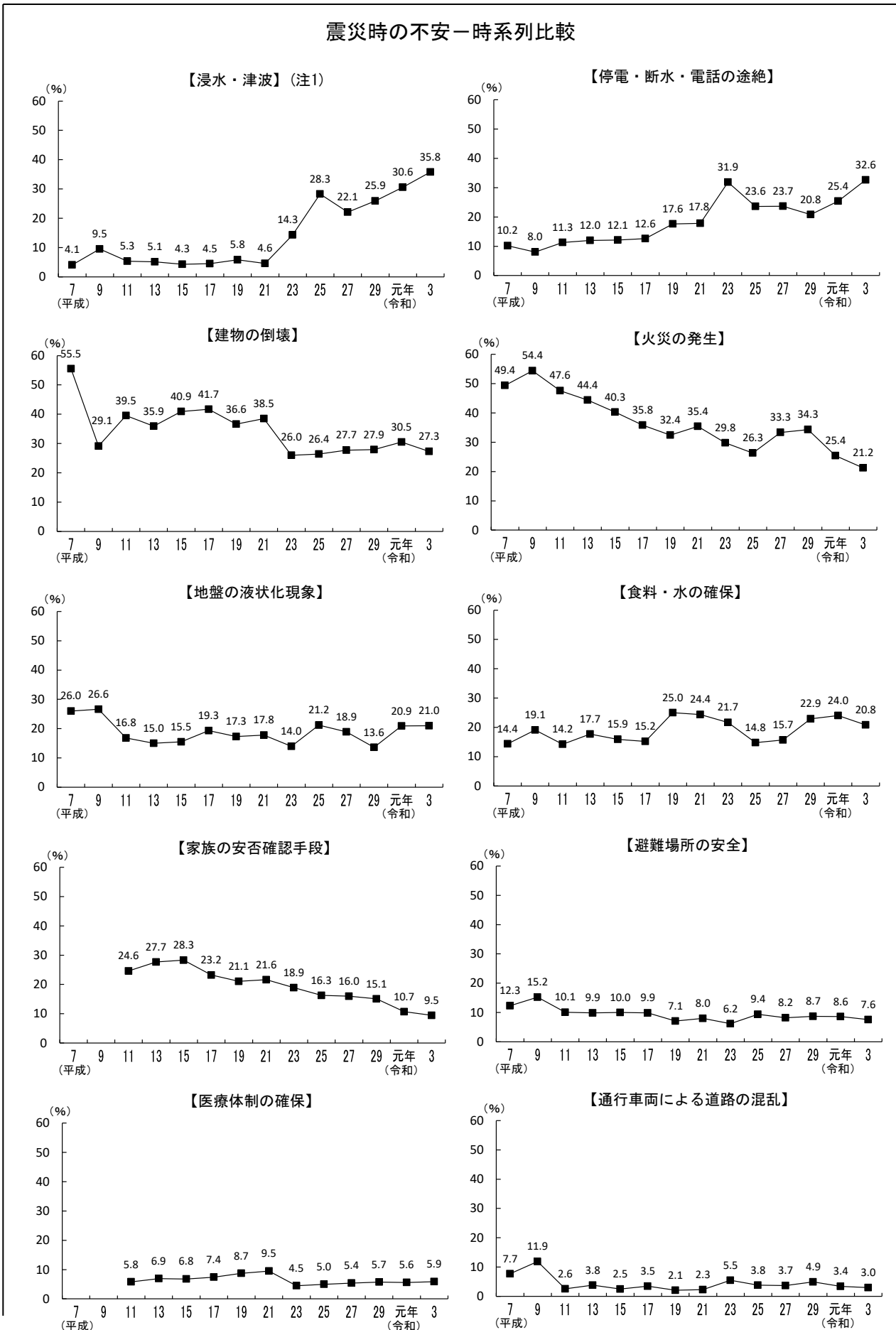
問3	今後、東京に大地震が発生した場合に、あなたが特に不安だと思うことは何ですか。 次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,661)				
1	火災の発生	21.2%	9	避難場所の安全	7.6%
2	ガス爆発	1.3%	10	家族の安否確認手段	9.5%
3	浸水・津波	35.8%	11	食料・水の確保	20.8%
4	地盤の液状化現象	21.0%	12	医療体制の確保	5.9%
5	建物の倒壊	27.3%	13	家具の転倒	1.7%
6	通行車両による道路の混乱	3.0%	14	その他	1.1%
7	停電・断水・電話の途絶	32.6%	15	特にない	0.7%
8	情報の取得	2.3%		無回答	1.8%

大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「浸水・津波」(35.8%)が3割台半ばで最も多く、次いで「停電・断水・電話の途絶」(32.6%)、「建物の倒壊」(27.3%)と続いている。

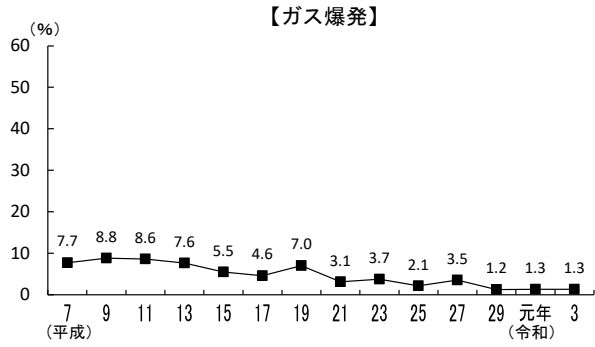
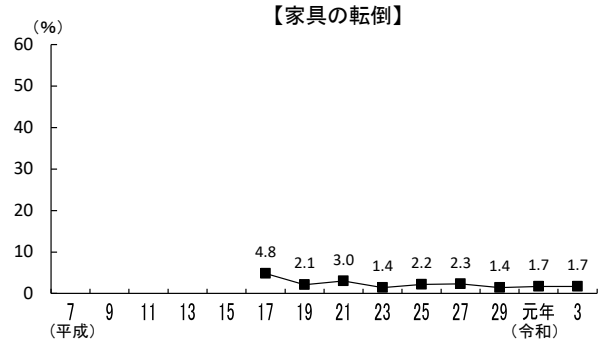
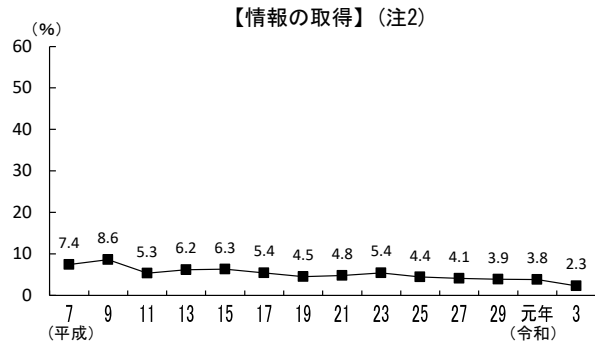


震災時の不安一時系列比較

時系列の変化をみると、前回調査と比べて「浸水・津波」は5ポイント、「停電・断水・電話の途絶」は7ポイント高くなっている。



第4章
調査結果の分析
2 防災対策



(注1) 平成21年までは「浸水」
 (注2) 平成21年までは「情報の提供」

震災時の不安－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「停電・断水・電話の途絶」は女性の方が男性より9ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「浸水・津波」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高く、女性18～29歳で5割を超えている。「停電・断水・電話の途絶」は女性40～49歳、女性70歳以上で4割を超え、「建物の倒壊」は男性60～69歳、女性70歳以上で3割台半ばとなっている。

震災時の不安－性別・性／年齢別（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,661	浸水・津波 35.8	停電・断水・電話の途絶 32.6	建物の倒壊 27.3	火災の発生 21.2	地盤の液状化現象 21.0
性別	男性	716	浸水・津波 37.7	停電・断水・電話の途絶 27.5	建物の倒壊／食料・水の確保 25.6		地盤の液状化現象 22.9
	女性	919	停電・断水・電話の途絶 36.5	浸水・津波 34.8	建物の倒壊 28.8	火災の発生 21.0	地盤の液状化現象 19.6
年齢	18～29歳	169	浸水・津波 49.7	停電・断水・電話の途絶 25.4	地盤の液状化現象 24.9	建物の倒壊 20.1	食料・水の確保 15.4
	30～39歳	271	浸水・津波 48.0	停電・断水・電話の途絶 30.6	建物の倒壊 24.0	地盤の液状化現象 22.5	食料・水の確保 21.0
	40～49歳	343	浸水・津波 39.7	停電・断水・電話の途絶 31.2	地盤の液状化現象／建物の倒壊 24.8		火災の発生 21.0
	50～59歳	287	浸水・津波 32.4	停電・断水・電話の途絶 31.7	建物の倒壊 26.5	食料・水の確保 24.4	火災の発生 24.0
	60～69歳	235	建物の倒壊 34.0	停電・断水・電話の途絶 33.6	浸水・津波 30.6	食料・水の確保 23.0	火災の発生 21.3
	70歳以上	333	停電・断水・電話の途絶 39.0	建物の倒壊 33.0	火災の発生 24.6	浸水・津波 22.8	食料・水の確保 18.9
	男性×年齢	18～29歳	67	浸水・津波 46.3	地盤の液状化現象 29.9	食料・水の確保 22.4	建物の倒壊／停電・断水・電話の途絶 19.4
	30～39歳	115	浸水・津波 49.6	停電・断水・電話の途絶／食料・水の確保 27.8		地盤の液状化現象 25.2	建物の倒壊 20.9
	40～49歳	164	浸水・津波 41.5	地盤の液状化現象 27.4	建物の倒壊／食料・水の確保 24.4		火災の発生 21.3
	50～59歳	136	浸水・津波 34.6	停電・断水・電話の途絶 30.1	食料・水の確保 26.5	地盤の液状化現象 24.3	建物の倒壊 22.8
	60～69歳	99	建物の倒壊 35.4	浸水・津波 34.3	停電・断水・電話の途絶 30.3	火災の発生 27.3	食料・水の確保 26.3
	70歳以上	134	停電・断水・電話の途絶 35.1	建物の倒壊 29.9	火災の発生 28.4	食料・水の確保 25.4	浸水・津波 24.6
女性×年齢	18～29歳	101	浸水・津波 51.5	停電・断水・電話の途絶 29.7	地盤の液状化現象 21.8	建物の倒壊 20.8	火災の発生 15.8
	30～39歳	155	浸水・津波 47.1	停電・断水・電話の途絶 32.9	建物の倒壊 25.8	地盤の液状化現象 20.0	火災の発生 19.4
	40～49歳	178	停電・断水・電話の途絶 41.0	浸水・津波 38.2	建物の倒壊 24.7	地盤の液状化現象 22.5	火災の発生 20.8
	50～59歳	150	停電・断水・電話の途絶 32.7	浸水・津波 30.7	建物の倒壊 30.0	火災の発生 28.7	食料・水の確保 22.7
	60～69歳	136	停電・断水・電話の途絶 36.0	建物の倒壊 33.1	浸水・津波 27.9	食料・水の確保 20.6	地盤の液状化現象 19.1
	70歳以上	199	停電・断水・電話の途絶 41.7	建物の倒壊 35.2	火災の発生 22.1	浸水・津波 21.6	地盤の液状化現象 15.6

第4章
調査結果の分析
2 防災対策

震災時の不安－住居形態

住居形態でみると、「浸水・津波」は一戸建持ち家(自己所有地)、集合住宅賃貸(民間)で4割を超え第1位、一戸建持ち家(借地)も「火災の発生」と「浸水・津波」が4割台半ばで第1位となっている。「停電・断水・電話の途絶」は集合住宅持ち家、集合住宅賃貸(都営等)、寮・社宅で第1位となっている。

震災時の不安－住居形態(上位5項目)

(%)

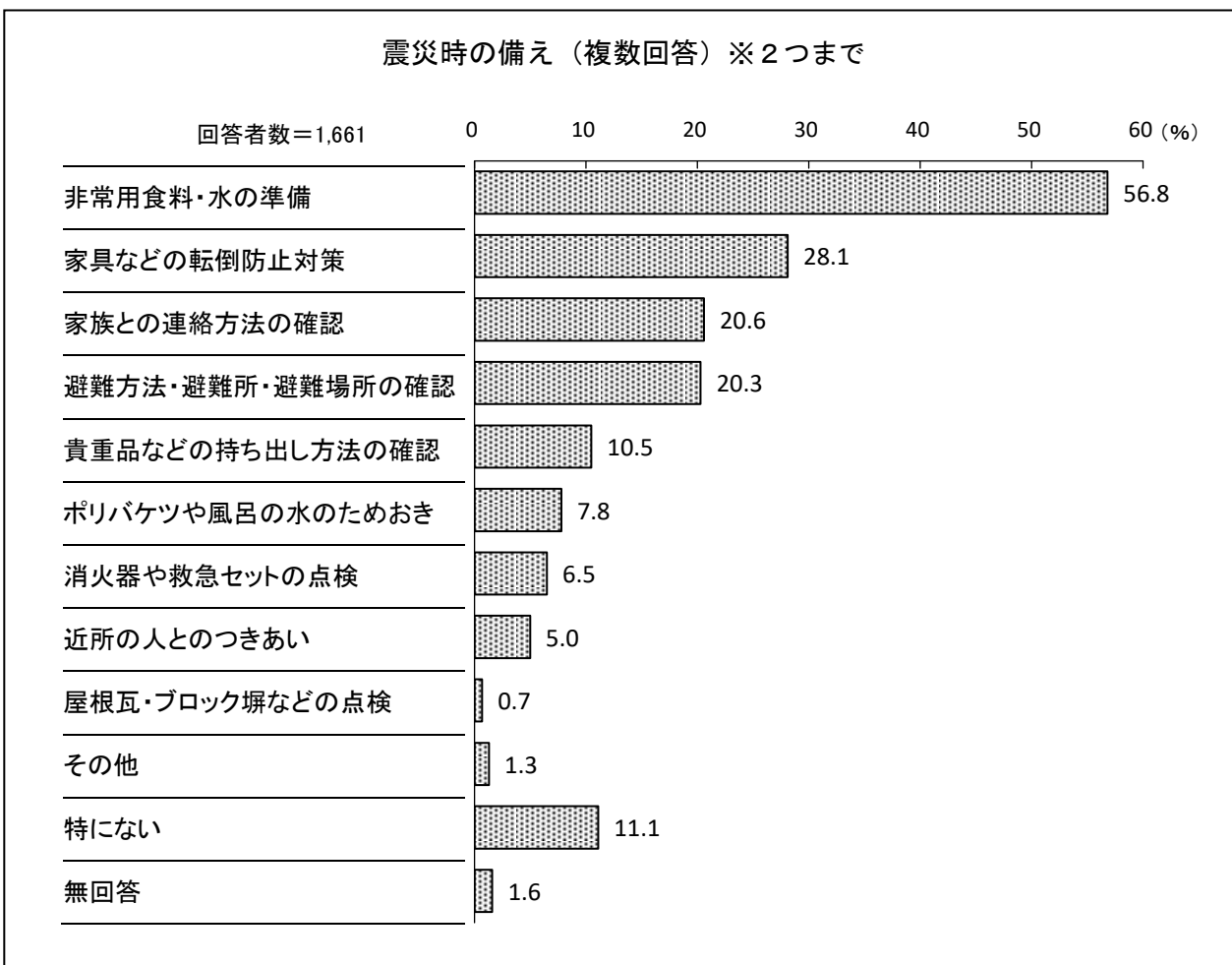
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位		
全体		1,661	浸水・津波 35.8	停電・断水・電話の途絶 32.6	建物の倒壊 27.3	火災の発生 21.2	地盤の液状化現象 21.0		
住居形態	持ち家	一戸建て 自己所有地	207	浸水・津波 41.1	建物の倒壊 35.3	火災の発生 32.9	停電・断水・電話の途絶 21.3	食料・水の確保 17.4	
		借地	44	火災の発生／浸水・津波 45.5		建物の倒壊 31.8	停電・断水・電話の途絶 22.7	地盤の液状化現象 11.4	
		集合住宅	733	停電・断水・電話の途絶 34.7	浸水・津波 33.3	建物の倒壊 27.4	地盤の液状化現象 26.3	食料・水の確保 21.4	
	賃貸	一戸建て	16	浸水・津波 50.0	建物の倒壊 37.5	火災の発生 31.3	避難場所の安全 25.0	地盤の液状化現象 18.8	
		集合住宅	民間	322	浸水・津波 43.5	停電・断水・電話の途絶 34.8	建物の倒壊 23.6	食料・水の確保 20.5	火災の発生 19.6
			都営等	227	停電・断水・電話の途絶 34.4	浸水・津波 28.2	建物の倒壊 26.4	食料・水の確保 23.8	火災の発生 17.2
		寮・社宅	72	停電・断水・電話の途絶 37.5	浸水・津波 34.7	食料・水の確保 25.0	地盤の液状化現象 22.2	建物の倒壊 20.8	
		間借り・住み込み	6	停電・断水・電話の途絶 50.0	建物の倒壊／食料・水の確保 33.3		火災の発生／浸水・津波／地盤の液状化現象／医療体制の確保 16.7		
		その他	5	地盤の液状化現象／停電・断水・電話の途絶／食料・水の確保 40.0			浸水・津波／建物の倒壊／情報の取得／家族の安否確認手段 20.0		

(2) 震災時の備え

◇「非常用食料・水の準備」が6割近く

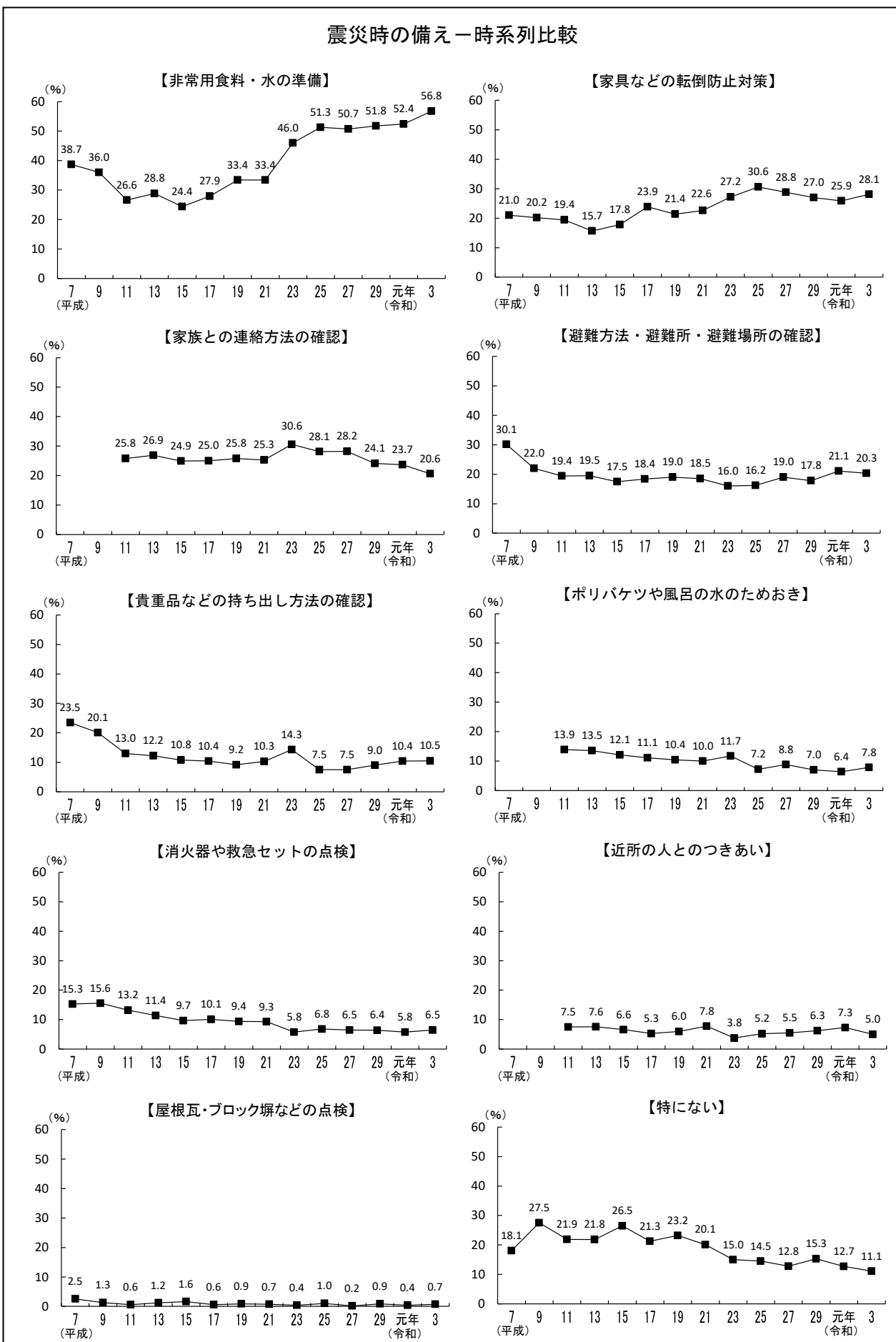
問4	あなたのご家庭で、大地震に備えて普段から特に心掛けていることは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,661)				
1	屋根瓦・ブロック塀などの点検	0.7%	7	家族との連絡方法の確認	20.6%
2	家具などの転倒防止対策	28.1%	8	ポリバケツや風呂の水のためおき	7.8%
3	消火器や救急セットの点検	6.5%	9	近所の人とのつきあい	5.0%
4	非常用食料・水の準備	56.8%	10	その他	1.3%
5	避難方法・避難所・避難場所の確認	20.3%	11	特にない	11.1%
6	貴重品などの持ち出し方法の確認	10.5%		無回答	1.6%

大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(56.8%)が6割近くで最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(28.1%)、「家族との連絡方法の確認」(20.6%)、「避難方法・避難所・避難場所の確認」(20.3%)と続いている。



震災時の備え—時系列比較

時系列の変化をみると、「非常用食料・水の準備」は前回調査と比べて4ポイント高くなっている。



第4章
調査結果の分析
2 防災対策

第4章 調査結果の分析（2 防災対策）

震災時の備え－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「非常用食料・水の準備」は女性の方が男性より4ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、第1位はすべて「非常用食料・水の準備」となっており、男女とも40～49歳で6割台半ばとなっている。

震災時の備え－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,661	非常用食料・水の準備 56.8	家具などの転倒防止対策 28.1	家族との連絡方法の確認 20.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.3	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.5
性別	男性	716	非常用食料・水の準備 54.9	家具などの転倒防止対策 26.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.1	家族との連絡方法の確認 20.1	貴重品などの持ち出し方法の確認 12.6
	女性	919	非常用食料・水の準備 58.8	家具などの転倒防止対策 28.9	家族との連絡方法の確認 21.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 19.7	貴重品などの持ち出し方法の確認 8.7
年齢	18～29歳	169	非常用食料・水の準備 50.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.3	家具などの転倒防止対策 20.7	家族との連絡方法の確認 16.0	貴重品などの持ち出し方法の確認 12.4
	30～39歳	271	非常用食料・水の準備 58.7	家具などの転倒防止対策 22.9	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.0	家族との連絡方法の確認 19.6	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.0
	40～49歳	343	非常用食料・水の準備 65.6	家具などの転倒防止対策 25.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.6	家族との連絡方法の確認 20.7	消火器や救急セットの点検 8.2
	50～59歳	287	非常用食料・水の準備 55.1	家具などの転倒防止対策 28.9	家族との連絡方法の確認 22.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 17.4	貴重品などの持ち出し方法の確認 8.4
	60～69歳	235	非常用食料・水の準備 57.4	家具などの転倒防止対策 31.9	家族との連絡方法の確認 24.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 18.7	ポリバケツや風呂の水のためおき 13.6
	70歳以上	333	非常用食料・水の準備 51.4	家具などの転倒防止対策 33.0	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.6	家族との連絡方法の確認 19.8	貴重品などの持ち出し方法の確認 13.8
男性×年齢	18～29歳	67	非常用食料・水の準備 55.2	家具などの転倒防止対策 20.9	貴重品などの持ち出し方法の確認 16.4	避難方法・避難所・避難場所の確認 14.9	家族との連絡方法の確認 11.9
	30～39歳	115	非常用食料・水の準備 60.9	家具などの転倒防止対策 22.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.9	家族との連絡方法の確認 19.1	貴重品などの持ち出し方法の確認 13.0
	40～49歳	164	非常用食料・水の準備 65.2	避難方法・避難所・避難場所の確認 23.2	家族との連絡方法の確認 22.6	家具などの転倒防止対策 20.7	消火器や救急セットの点検 11.0
	50～59歳	136	非常用食料・水の準備 46.3	家具などの転倒防止対策 25.7	家族との連絡方法の確認 22.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 19.9	貴重品などの持ち出し方法の確認 8.8
	60～69歳	99	非常用食料・水の準備 51.5	家具などの転倒防止対策 32.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 23.2	家族との連絡方法の確認 22.2	貴重品などの持ち出し方法の確認 16.2
	70歳以上	134	非常用食料・水の準備 47.8	家具などの転倒防止対策 33.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.6	貴重品などの持ち出し方法の確認 19.4	家族との連絡方法の確認 18.7
女性×年齢	18～29歳	101	非常用食料・水の準備 47.5	避難方法・避難所・避難場所の確認 25.7	家具などの転倒防止対策 20.8	家族との連絡方法の確認 18.8	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.9
	30～39歳	155	非常用食料・水の準備 57.4	家具などの転倒防止対策 23.2	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.3	家族との連絡方法の確認 20.0	消火器や救急セットの点検 10.3
	40～49歳	178	非常用食料・水の準備 66.3	家具などの転倒防止対策 30.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 19.7	家族との連絡方法の確認 18.5	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.0
	50～59歳	150	非常用食料・水の準備 62.7	家具などの転倒防止対策 31.3	家族との連絡方法の確認 23.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 15.3	ポリバケツや風呂の水のためおき 9.3
	60～69歳	136	非常用食料・水の準備 61.8	家具などの転倒防止対策 31.6	家族との連絡方法の確認 25.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 15.4	ポリバケツや風呂の水のためおき 13.2
	70歳以上	199	非常用食料・水の準備 53.8	家具などの転倒防止対策 32.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.6	家族との連絡方法の確認 20.6	ポリバケツや風呂の水のためおき 11.6

2 調査結果の分析
第4章
防災対策

震災時の備え－住居形態

住居形態でみると、第1位はすべて「非常用食料・水の準備」となっており、持ち家（集合住宅）で6割を超えている。

震災時の備え－住居形態（上位5項目）

(%)

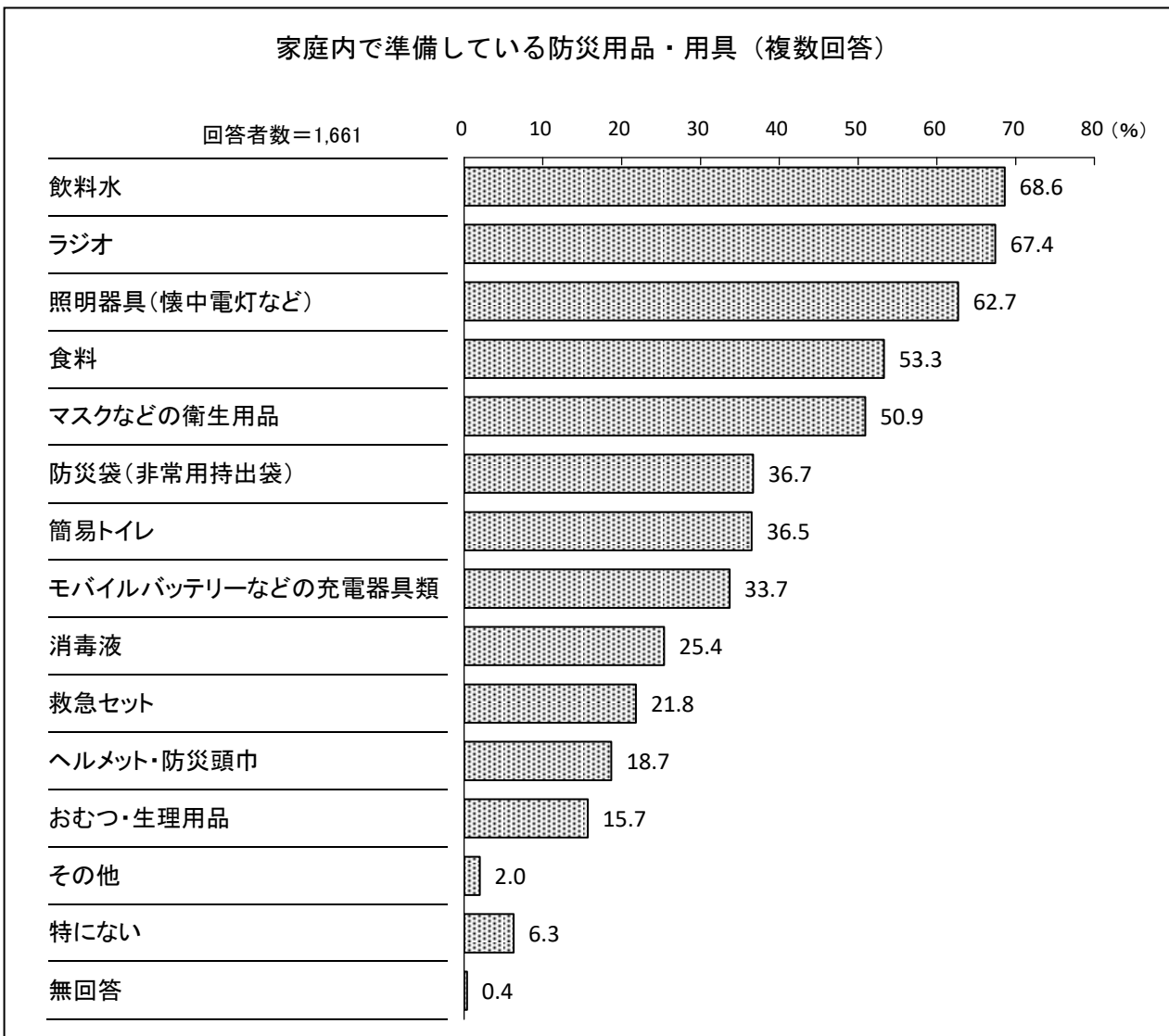
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体		1,661	非常用食料・水の準備 56.8	家具などの転倒防止対策 28.1	家族との連絡方法の確認 20.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.3	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.5	
住居形態	持ち家	自己所有地	207	非常用食料・水の準備 50.7	家具などの転倒防止対策 26.6	避難方法・避難所・避難場所の確認／家族との連絡方法の確認 22.2	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.2	
		借地	44	非常用食料・水の準備 47.7	家族との連絡方法の確認 25.0	家具などの転倒防止対策 22.7	避難方法・避難所・避難場所の確認／近所の人のつきあい 11.4	
		集合住宅	733	非常用食料・水の準備 62.5	家具などの転倒防止対策 34.1	家族との連絡方法の確認 20.5	避難方法・避難所・避難場所の確認 18.4	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.0
	賃貸	一戸建て	16	非常用食料・水の準備 56.3	家具などの転倒防止対策／避難方法・避難所・避難場所の確認 18.8	家族との連絡方法の確認／ポリバケツや風呂の水のためおき 12.5		
		民間	322	非常用食料・水の準備 57.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 24.5	家族との連絡方法の確認 17.7	家具などの転倒防止対策 16.5	貴重品などの持ち出し方法の確認 14.3
		都営等	227	非常用食料・水の準備 46.3	家具などの転倒防止対策 28.2	家族との連絡方法の確認 25.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.1	ポリバケツや風呂の水のためおき 13.7
		寮・社宅	72	非常用食料・水の準備 58.3	家具などの転倒防止対策／避難方法・避難所・避難場所の確認 20.8	家族との連絡方法の確認 16.7	貴重品などの持ち出し方法の確認 8.3	
	間借り・住み込み	6	非常用食料・水の準備 50.0	家具などの転倒防止対策 33.3	家族との連絡方法の確認 16.7			
	その他	5	非常用食料・水の準備 100.0	貴重品などの持ち出し方法の確認 40.0	家具などの転倒防止対策／避難方法・避難所・避難場所の確認 20.0			

(3) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「飲料水」と「ラジオ」が7割近く

問5	あなたのご家庭で、災害に備えて現在準備している防災用品および用具は何ですか。次の中からすべて選んでください。(回答者数=1,661)				
1	食料	53.3%	9	ヘルメット・防災頭巾	18.7%
2	飲料水	68.6%	10	おむつ・生理用品	15.7%
3	マスクなどの衛生用品	50.9%	11	救急セット	21.8%
4	消毒液	25.4%	12	防災袋(非常用持出袋)	36.7%
5	簡易トイレ	36.5%	13	その他	2.0%
6	ラジオ	67.4%	14	特になし	6.3%
7	照明器具(懐中電灯など)	62.7%		無回答	0.4%
8	モバイルバッテリーなどの充電器具類	33.7%			

災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「飲料水」(68.6%)が7割近くで最も多く、次いで「ラジオ」(67.4%)、「照明器具(懐中電灯など)」(62.7%)と続いている。



家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「飲料水」と「ラジオ」は男女とも6割以上となっている。「マスクなどの衛生用品」は女性の方が男性より10ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「ラジオ」は男性60～69歳が8割を超え、「飲料水」は女性60～69歳がほぼ8割となっている。

家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,661	飲料水 68.6	ラジオ 67.4	照明器具(懐中電灯など) 62.7	食料 53.3	マスクなどの衛生用品 50.9
性別	男性	716	ラジオ 66.6	飲料水 65.8	照明器具(懐中電灯など) 59.6	食料 50.7	マスクなどの衛生用品 45.4
	女性	919	飲料水 71.2	ラジオ 68.0	照明器具(懐中電灯など) 64.6	マスクなどの衛生用品 55.7	食料 55.6
年齢	18～29歳	169	飲料水 60.9	照明器具(懐中電灯など) 50.3	食料 47.3	マスクなどの衛生用品 46.2	ラジオ 42.0
	30～39歳	271	飲料水 64.9	ラジオ／照明器具(懐中電灯など) 58.3		食料 54.2	マスクなどの衛生用品 53.1
	40～49歳	343	飲料水 71.1	ラジオ 65.3	照明器具(懐中電灯など) 64.7	食料 59.8	マスクなどの衛生用品 55.4
	50～59歳	287	ラジオ 70.7	飲料水 67.2	照明器具(懐中電灯など) 58.9	マスクなどの衛生用品 51.2	食料 48.4
	60～69歳	235	ラジオ 80.4	飲料水 74.5	照明器具(懐中電灯など) 68.5	食料 54.0	マスクなどの衛生用品 53.6
	70歳以上	333	ラジオ 77.8	飲料水 70.6	照明器具(懐中電灯など) 68.8	食料 53.2	マスクなどの衛生用品 45.9
男性×年齢	18～29歳	67	飲料水 58.2	マスクなどの衛生用品 49.3	食料 44.8	照明器具(懐中電灯など) 41.8	ラジオ／モバイルバッテリーなどの充電器具類 37.3
	30～39歳	115	飲料水 68.7	照明器具(懐中電灯など) 64.3	ラジオ 61.7	食料 54.8	マスクなどの衛生用品 51.3
	40～49歳	164	飲料水 71.3	照明器具(懐中電灯など) 61.0	ラジオ 58.5	食料 57.9	マスクなどの衛生用品 50.0
	50～59歳	136	ラジオ 69.1	飲料水 61.8	照明器具(懐中電灯など) 52.2	マスクなどの衛生用品／モバイルバッテリーなどの充電器具類 42.6	
	60～69歳	99	ラジオ 83.8	飲料水／照明器具(懐中電灯など) 65.7		食料 53.5	マスクなどの衛生用品 42.4
	70歳以上	134	ラジオ 79.9	照明器具(懐中電灯など) 66.4	飲料水 64.2	食料 51.5	マスクなどの衛生用品 38.1
女性×年齢	18～29歳	101	飲料水 63.4	照明器具(懐中電灯など) 56.4	食料 49.5	ラジオ 45.5	マスクなどの衛生用品 44.6
	30～39歳	155	飲料水 61.9	ラジオ 55.5	マスクなどの衛生用品 54.8	食料／照明器具(懐中電灯など) 53.5	
	40～49歳	178	飲料水／ラジオ 71.3		照明器具(懐中電灯など) 68.0	食料 61.8	マスクなどの衛生用品 60.1
	50～59歳	150	飲料水／ラジオ 72.0		照明器具(懐中電灯など) 64.7	マスクなどの衛生用品 59.3	食料 57.3
	60～69歳	136	飲料水 80.9	ラジオ 77.9	照明器具(懐中電灯など) 70.6	マスクなどの衛生用品 61.8	食料 54.4
	70歳以上	199	ラジオ 76.4	飲料水 74.9	照明器具(懐中電灯など) 70.4	食料 54.3	マスクなどの衛生用品 51.3

第4章
調査結果の分析
2 防災対策

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態

住居形態でみると、「飲料水」と「ラジオ」は持ち家（集合住宅）と持ち家一戸建て（借地）で7割以上となっている。賃貸集合住宅（都営等）も「ラジオ」は7割を超えている。

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体		1,661	飲料水 68.6	ラジオ 67.4	照明器具(懐中電灯など) 62.7	食料 53.3	マスクなどの衛生用品 50.9	
住居形態	持ち家	一戸建て 自己所有地	207	ラジオ 69.6	飲料水 64.7	照明器具(懐中電灯など) 59.9	食料 50.2	マスクなどの衛生用品 46.9
		一戸建て 借地	44	飲料水 72.7	ラジオ 70.5	照明器具(懐中電灯など) 61.4	食料 50.0	マスクなどの衛生用品 45.5
		集合住宅	733	飲料水 74.6	ラジオ 71.5	照明器具(懐中電灯など) 67.7	食料 58.1	マスクなどの衛生用品 53.5
	賃貸	一戸建て	16	飲料水 68.8	照明器具(懐中電灯など) 62.5	ラジオ 56.3	マスクなどの衛生用品／モバイルバッテリーなどの充電器具類 50.0	
		集合住宅	民間	322	飲料水 61.2	ラジオ 55.6	照明器具(懐中電灯など) 51.6	食料 48.4
			都営等	227	ラジオ 73.6	照明器具(懐中電灯など) 67.0	飲料水 65.6	食料 48.5
		寮・社宅	72	飲料水 63.9	食料 58.3	マスクなどの衛生用品／照明器具(懐中電灯など) 54.2		ラジオ 50.0
		間借り・住み込み	6	ラジオ 83.3	マスクなどの衛生用品 66.7	食料／照明器具(懐中電灯など) 50.0		飲料水／簡易トイレ／ヘルメット・防災頭巾／おむつ・生理用品／救急セット／防災袋(非常用持出袋) 33.3
	その他	5	食料／飲料水／ラジオ 80.0			マスクなどの衛生用品／簡易トイレ／照明器具(懐中電灯など) 60.0		

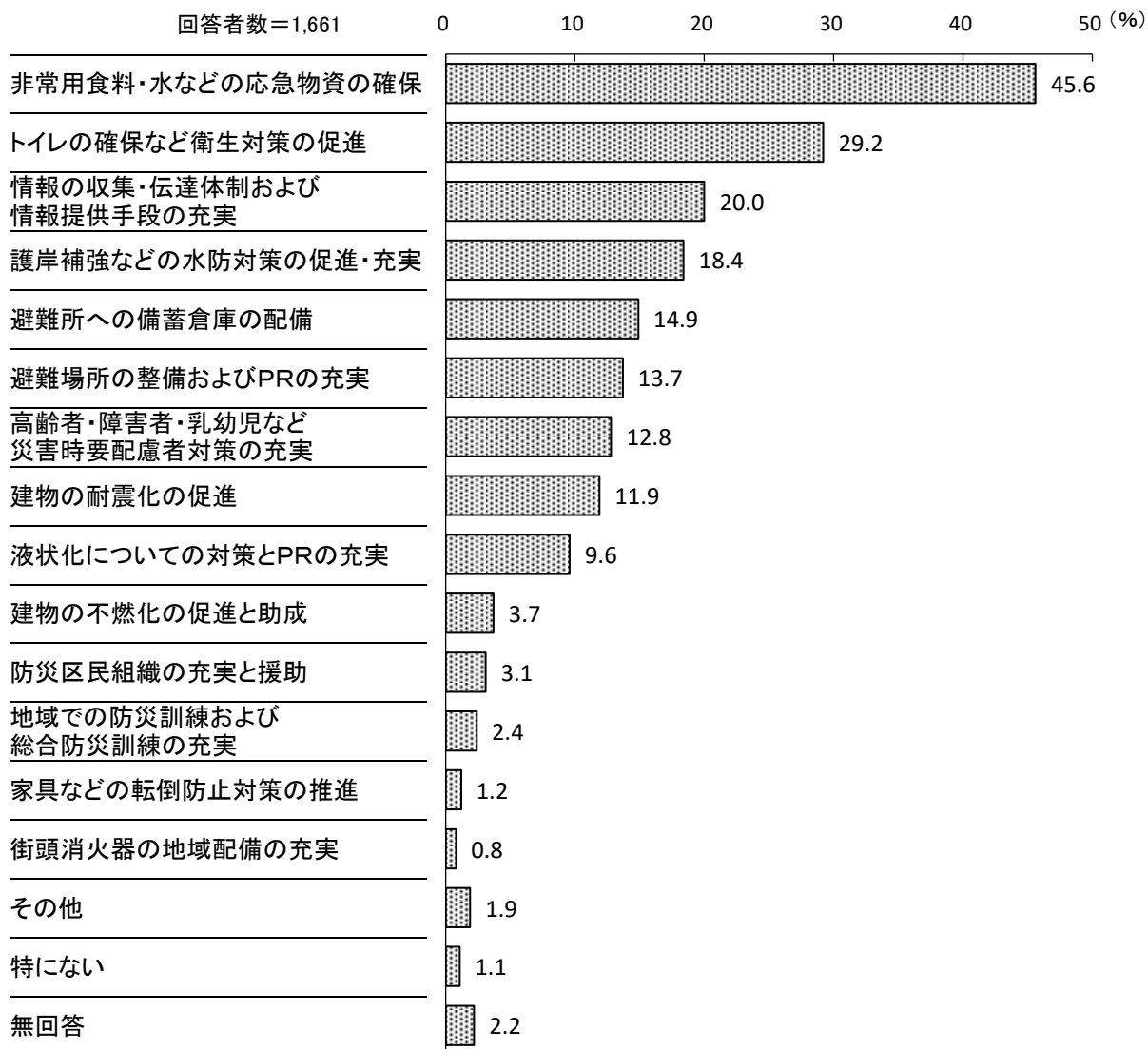
(4) 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が4割台半ば

問6	あなたが、大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,661)	
1	非常用食料・水などの応急物資の確保	45.6%
2	建物の耐震化の促進	11.9%
3	家具などの転倒防止対策の推進	1.2%
4	避難所への備蓄倉庫の配備	14.9%
5	防災区民組織の充実と援助	3.1%
6	情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実	20.0%
7	建物の不燃化の促進と助成	3.7%
8	地域での防災訓練および総合防災訓練の充実	2.4%
9	街頭消火器の地域配備の充実	0.8%
10	液状化についての対策とPRの充実	9.6%
11	護岸補強などの水防対策の促進・充実	18.4%
12	避難場所の整備およびPRの充実	13.7%
13	高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実	12.8%
14	トイレの確保など衛生対策の促進	29.2%
15	その他	1.9%
16	特にない	1.1%
	無回答	2.2%

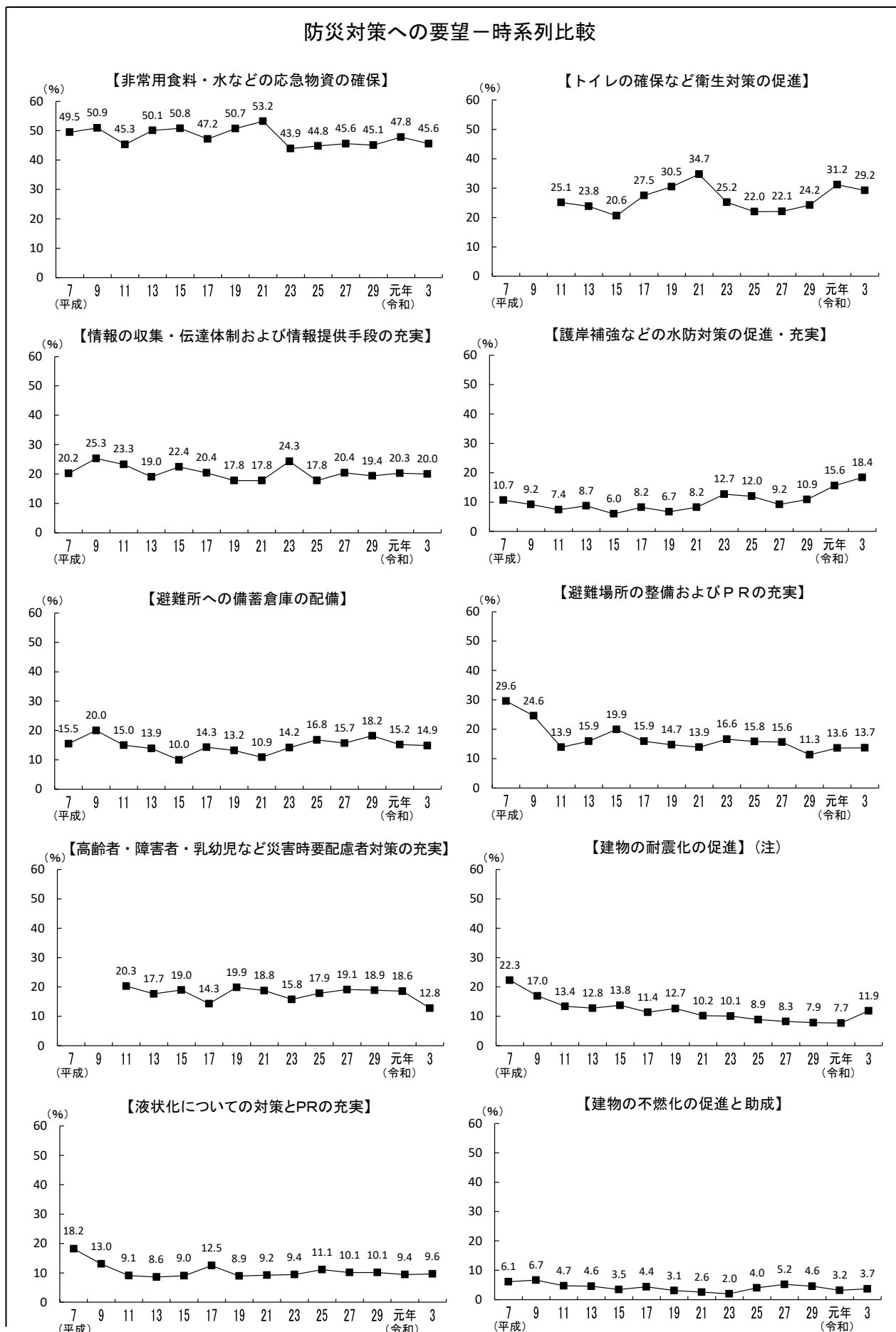
大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(45.6%)が4割台半ばで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(29.2%)、「情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実」(20.0%)と続いている。

防災対策への要望（複数回答）※2つまで

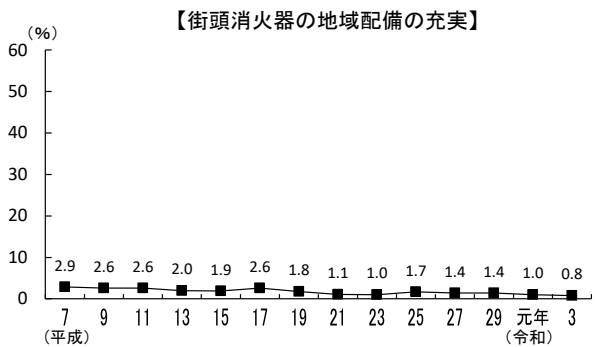
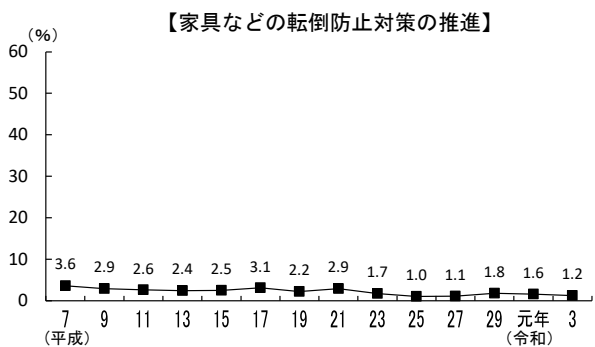
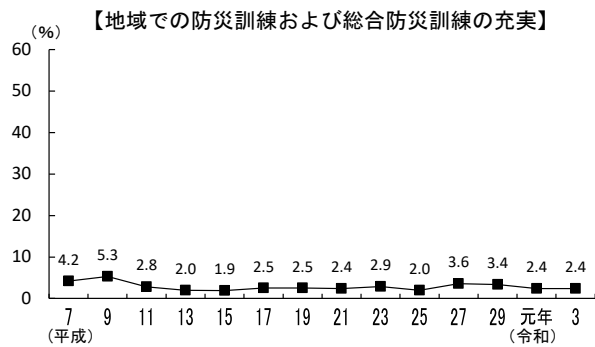
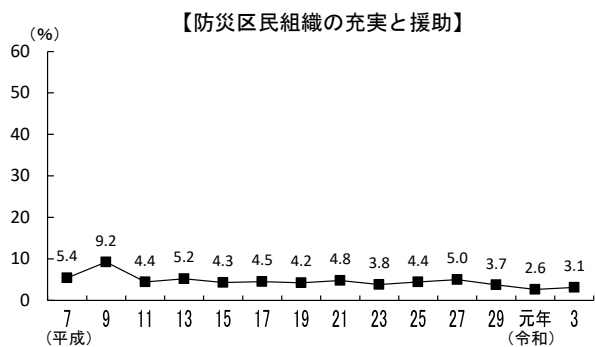


防災対策への要望—時系列比較

時系列の変化をみると、「護岸補強などの水防対策の促進・充実」は平成27年以降年々上昇し、今回の調査では過去調査と比べて最も高くなっている。



第4章
調査結果の分析
2 防災対策



(注) 令和元年までは「居住の耐震診断」

防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、第1位の「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性の方が女性より7ポイント高く、第2位の「トイレの確保など衛生対策の促進」は女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

性別×年齢で見ると、第1位はすべて「非常用食料・水などの応急物資の確保」となっており、男性18～29歳で5割台半ば、女性18～29歳で5割を超えている。「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」は男女とも70歳以上で2割台半ばとなっている。

防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,661	応急物資の確保 45.6	衛生対策の促進 29.2	情報収集等の充実 20.0	水防対策の促進・充実 18.4	避難所の備蓄倉庫配備 14.9
性別	男性	716	応急物資の確保 49.7	衛生対策の促進 26.0	水防対策の促進・充実 19.1	情報収集等の充実 18.7	避難所の備蓄倉庫配備 14.9
	女性	919	応急物資の確保 42.7	衛生対策の促進 32.0	情報収集等の充実 21.2	水防対策の促進・充実 18.1	避難所の備蓄倉庫配備 15.1
年齢	18～29歳	169	応急物資の確保 54.4	衛生対策の促進 24.9	建物の耐震化促進／避難所の備蓄倉庫配備 20.1	水防対策の促進・充実 17.8	
	30～39歳	271	応急物資の確保 48.3	衛生対策の促進 30.3	水防対策の促進・充実 20.7	避難所の備蓄倉庫配備 16.2	建物の耐震化促進／情報収集等の充実 14.8
	40～49歳	343	応急物資の確保 43.4	衛生対策の促進 29.7	水防対策の促進・充実 22.4	避難所の備蓄倉庫配備	情報収集等の充実 18.1
	50～59歳	287	応急物資の確保 46.7	衛生対策の促進 32.1	情報収集等の充実 25.4	水防対策の促進・充実 20.2	避難場所の整備・PR 15.0
	60～69歳	235	応急物資の確保 44.3	衛生対策の促進 30.2	情報収集等の充実 20.9	水防対策の促進・充実 19.1	要配慮者対策の充実 16.2
	70歳以上	333	応急物資の確保 42.0	衛生対策の促進 27.6	要配慮者対策の充実 25.2	情報収集等の充実 23.4	避難場所の整備・PR 12.6
	18～29歳	67	応急物資の確保 55.2	建物の耐震化促進 22.4	衛生対策の促進 19.4	避難所の備蓄倉庫配備 17.9	情報収集等の充実／液化化対策とPRの充実／水防対策の促進・充実 16.4
男性×年齢	30～39歳	115	応急物資の確保 49.6	衛生対策の促進 25.2	水防対策の促進・充実 24.3	避難所の備蓄倉庫配備 16.5	建物の耐震化促進 13.9
	40～49歳	164	応急物資の確保 48.8	衛生対策の促進 26.2	水防対策の促進・充実 24.4	避難所の備蓄倉庫配備 16.5	情報収集等の充実／避難場所の整備・PR 14.6
	50～59歳	136	応急物資の確保 50.0	衛生対策の促進 29.4	情報収集等の充実 22.1	水防対策の促進・充実 21.3	避難所の備蓄倉庫配備／避難場所の整備・PR 15.4
	60～69歳	99	応急物資の確保 50.5	衛生対策の促進 30.3	情報収集等の充実 21.2	避難場所の整備・PR 16.2	建物の耐震化促進／液化化対策とPRの充実 13.1
	70歳以上	134	応急物資の確保 47.8	要配慮者対策の充実 25.4	情報収集等の充実 24.6	衛生対策の促進 23.1	避難所の備蓄倉庫配備／避難場所の整備・PR 13.4
	18～29歳	101	応急物資の確保 53.5	衛生対策の促進 28.7	避難所の備蓄倉庫配備 21.8	建物の耐震化促進 18.8	水防対策の促進・充実 17.8
女性×年齢	30～39歳	155	応急物資の確保 47.7	衛生対策の促進 33.5	水防対策の促進・充実 18.1	避難所の備蓄倉庫配備	情報収集等の充実 16.1
	40～49歳	178	応急物資の確保 38.8	衛生対策の促進 33.1	情報収集等の充実 21.3	水防対策の促進・充実 20.8	避難所の備蓄倉庫配備 19.7
	50～59歳	150	応急物資の確保 43.3	衛生対策の促進 34.7	情報収集等の充実 28.7	水防対策の促進・充実 19.3	避難場所の整備・PR 14.7
	60～69歳	136	応急物資の確保 39.7	衛生対策の促進 30.1	水防対策の促進・充実 25.0	情報収集等の充実 20.6	要配慮者対策の充実 19.9
	70歳以上	199	応急物資の確保 38.2	衛生対策の促進 30.7	要配慮者対策の充実 25.1	情報収集等の充実 22.6	避難場所の整備・PR 12.1

第4章
調査結果の分析
2 防災対策

3 ごみ・リサイクル

-
- (1) ごみを減らす活動の取り組み状況
 - (2) ごみを減らすために行っている取り組み
-

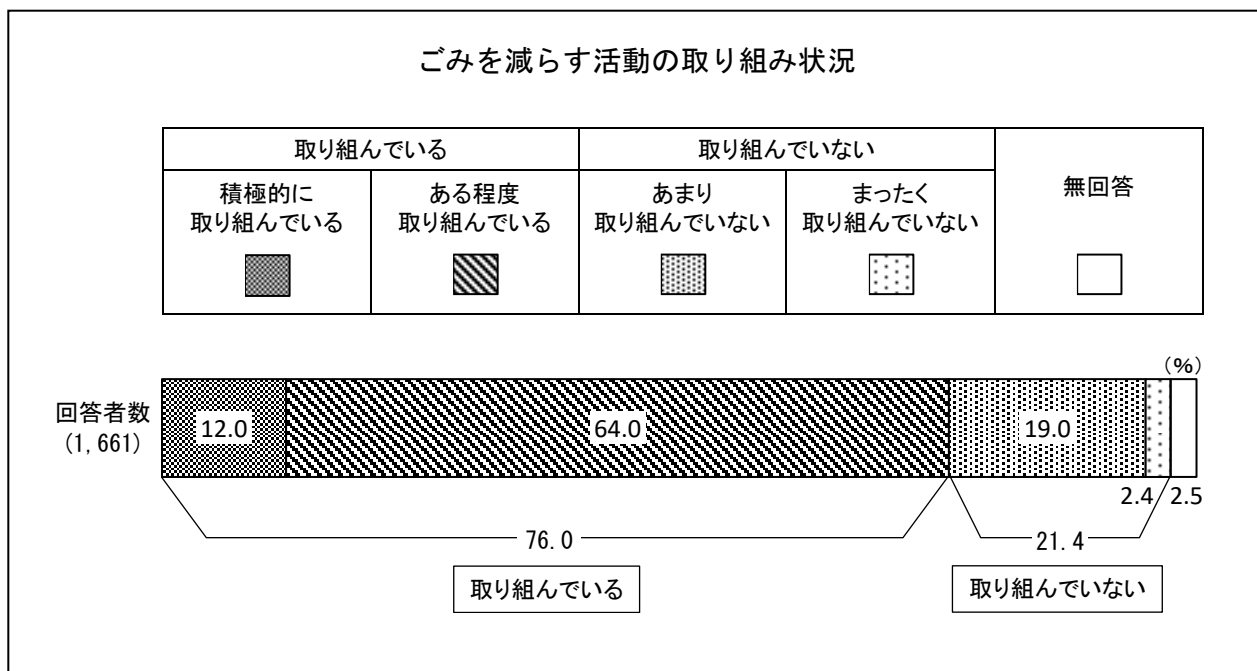
3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らす活動の取り組み状況

◇《取り組んでいる》は7割台半ば

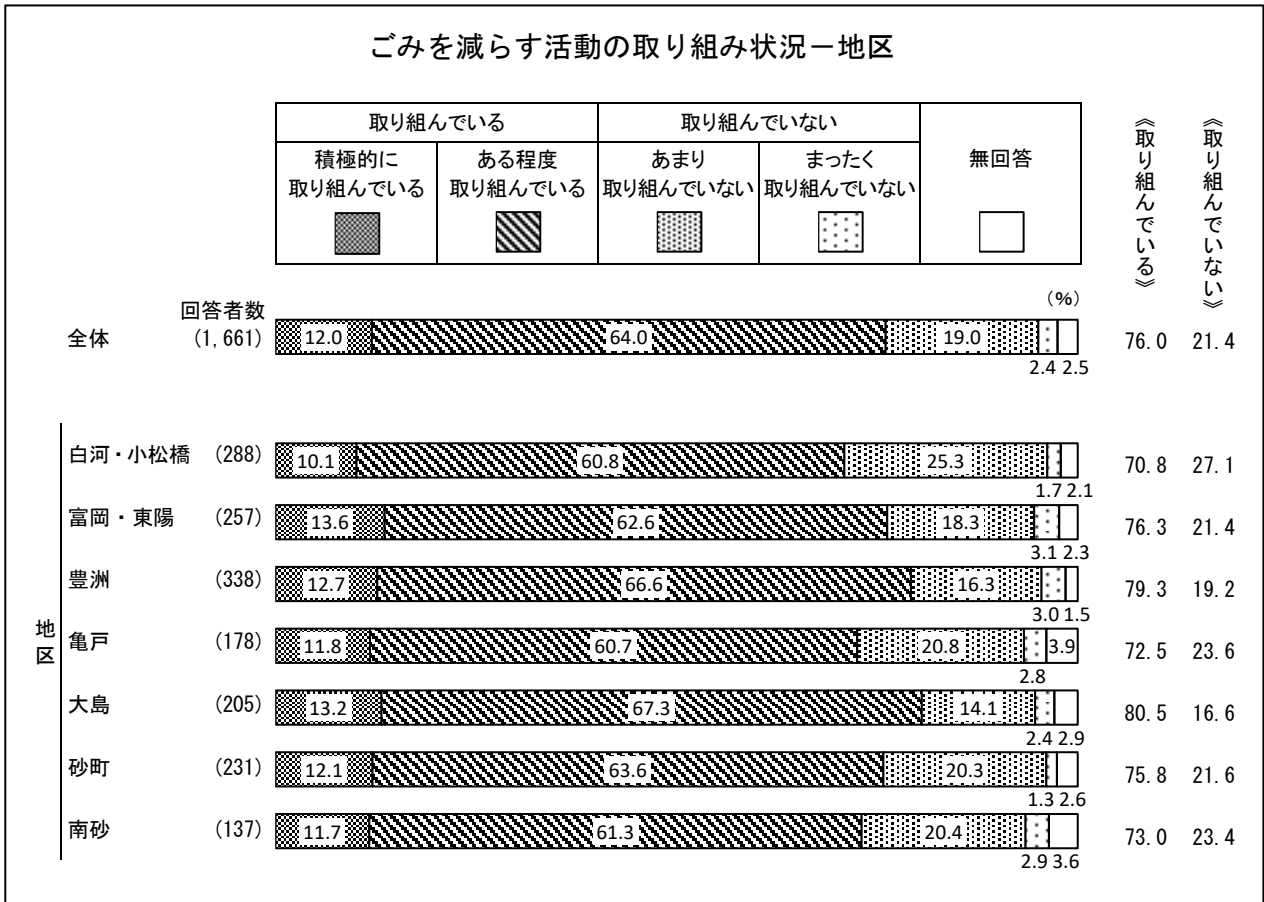
問7	あなたは、日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいますか。 次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,661)				
1	積極的に取り組んでいる	12.0%	3	あまり取り組んでいない	19.0%
2	ある程度取り組んでいる	64.0%	4	まったく取り組んでいない	2.4%
				無回答	2.5%

日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(12.0%)と「ある程度取り組んでいる」(64.0%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(76.0%)は7割台半ばとなっている。一方、「あまり取り組んでいない」(19.0%)と「まったく取り組んでいない」(2.4%)の2つを合わせた《取り組んでいない》(21.4%)は2割を超えている。



ごみを減らす活動の取り組み状況－地区

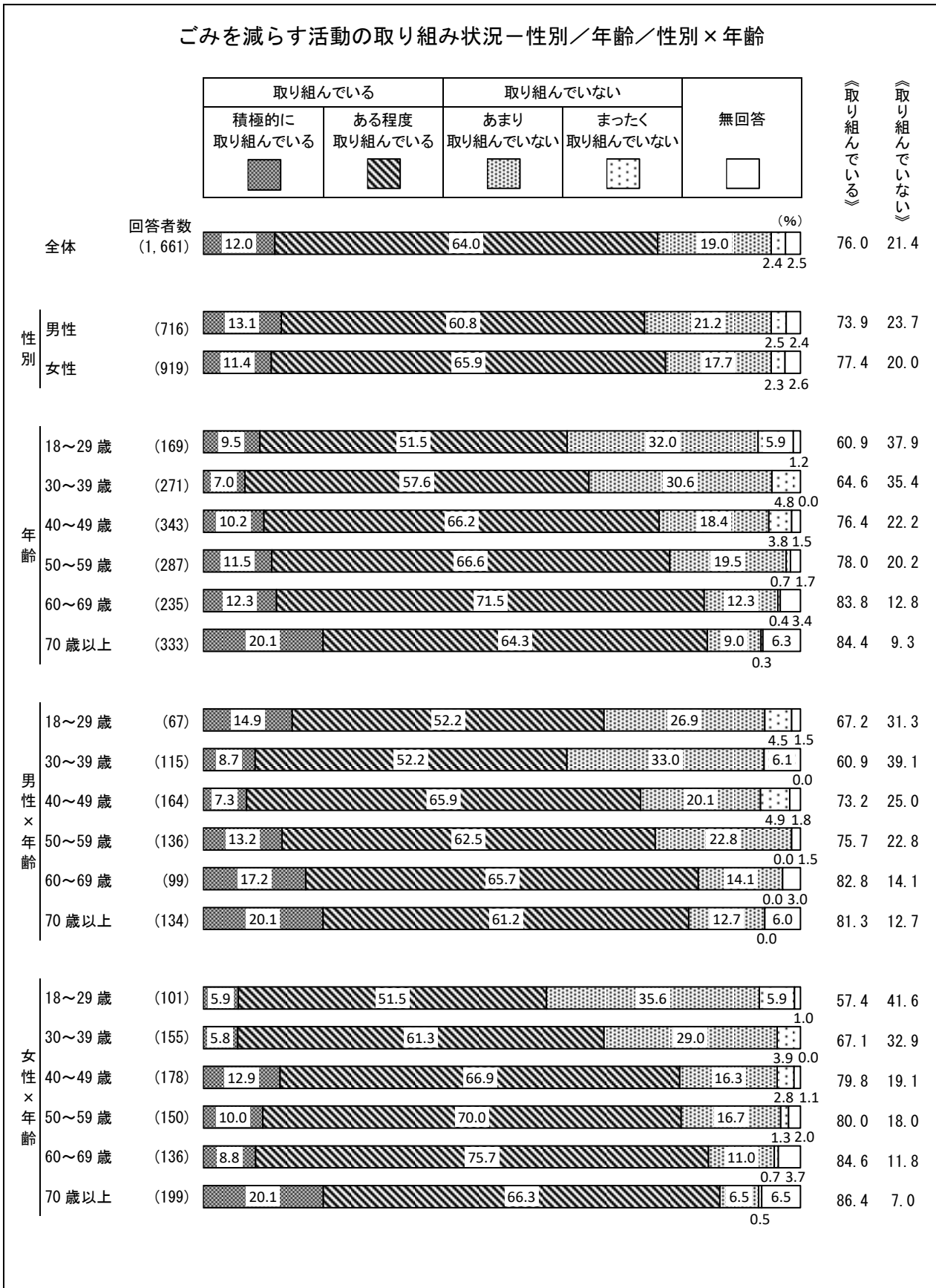
地区で見ると、《取り組んでいる》は豊洲地区、大島地区でほぼ8割となっている。一方、《取り組んでいない》は白河・小松橋地区で3割近くとなっている。



ごみを減らす活動の取り組み状況－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、男女とも《取り組んでいる》は7割台となっている。

性別×年齢で見ると、《取り組んでいる》は男女とも高い年代ほど割合が高く、女性 60～69歳、女性 70歳以上で8割台半ば、男性 60～69歳、男性 70歳以上で8割を超えている。一方、《取り組んでいない》は女性 18～29歳で4割を超え、男性 30～39歳でほぼ4割となっている。



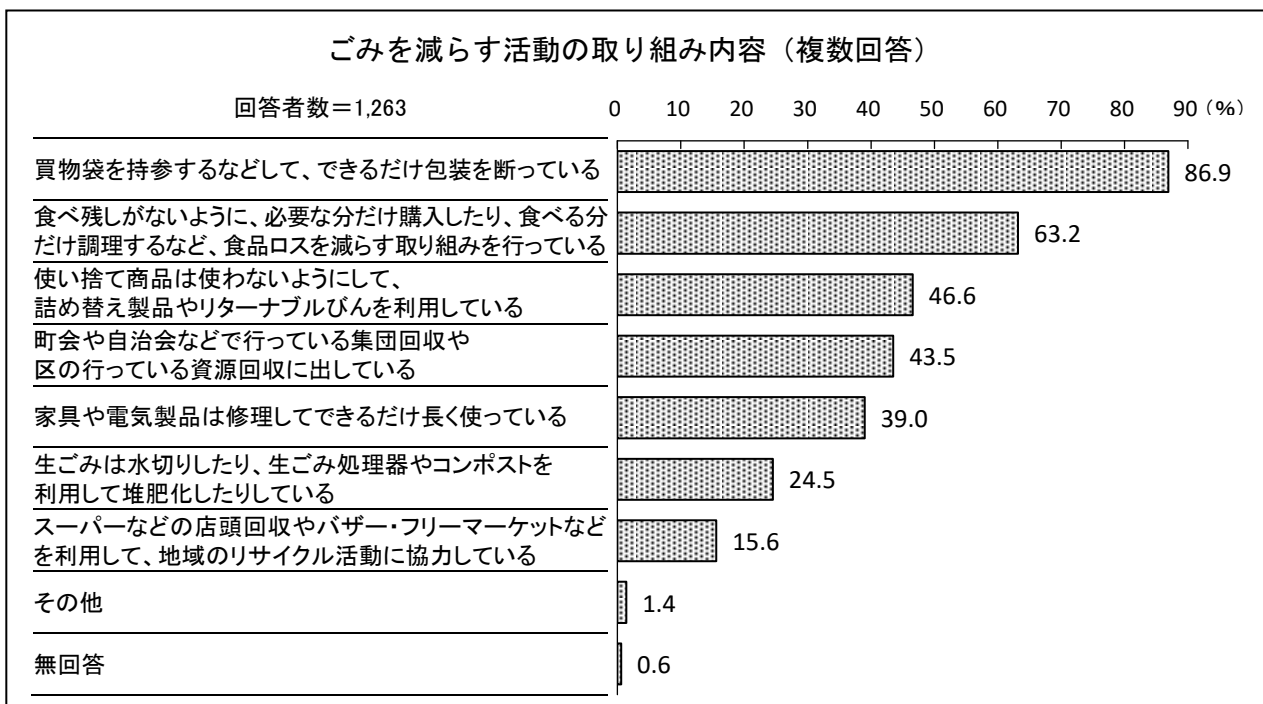
第4章 調査結果の分析 3 ごみ・リサイクル

(2) ごみを減らすために行っている取り組み

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が9割近く

問7-1	(問7で、「1 積極的に取り組んでいる」か「2 ある程度取り組んでいる」とお答えの方に) あなたは、ごみを減らすために、どのような取り組みをなさっていますか。 次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=1,263)	
1	家具や電気製品は修理してできるだけ長く使っている	39.0%
2	買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている	86.9%
3	使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している	46.6%
4	生ごみは水切りしたり、生ごみ処理器やコンポストを利用して堆肥化したりしている	24.5%
5	スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している	15.6%
6	町会や自治会などで行っている集団回収や区の行っている資源回収に出している	43.5%
7	食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている	63.2%
8	その他	1.4%
	無回答	0.6%

ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(86.9%)が9割近くで最も多く、次いで「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(63.2%)、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」(46.6%)と続いている。



第4章 調査結果の分析 3 ごみ・リサイクル

ごみを減らす活動の取り組み内容－地区

地区で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」はすべての地区で8割台となっている。「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」は南砂地区で7割を超え、「町会や自治会などで行っている集団回収や区の行っている資源回収に出している」は白河・小松橋地区ではほぼ5割、大島地区、南砂地区で5割近くとなっている。

ごみを減らす活動の取り組み内容－地区（上位5項目）

（％）

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,263	買物袋の持参 86.9	食品ロスを減らす取組 63.2	使い捨て商品は使わない 46.6	集団回収等の活用 43.5	家具や電気製品の修理 39.0
地区	白河・小松橋	買物袋の持参 88.2	食品ロスを減らす取組 60.8	集団回収等の活用 49.0	使い捨て商品は使わない 47.1	家具や電気製品の修理 40.2
	富岡・東陽	買物袋の持参 89.8	食品ロスを減らす取組 65.3	使い捨て商品は使わない 48.5	家具や電気製品の修理 40.8	集団回収等の活用 37.8
	豊洲	買物袋の持参 85.1	食品ロスを減らす取組 62.3	使い捨て商品は使わない 46.6	家具や電気製品の修理 44.8	集団回収等の活用 36.6
	亀戸	買物袋の持参 86.0	食品ロスを減らす取組 65.9	使い捨て商品は使わない 45.7	集団回収等の活用 45.0	家具や電気製品の修理 37.2
	大島	買物袋の持参 87.3	食品ロスを減らす取組 59.4	集団回収等の活用 48.5	使い捨て商品は使わない 46.7	家具や電気製品の修理 31.5
	砂町	買物袋の持参 88.0	食品ロスを減らす取組 62.9	使い捨て商品は使わない 50.3	集団回収等の活用 44.6	家具や電気製品の修理 34.9
	南砂	買物袋の持参 82.0	食品ロスを減らす取組 71.0	集団回収等の活用 48.0	使い捨て商品は使わない 44.0	家具や電気製品の修理 41.0

ごみを減らす活動の取り組み内容－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」は女性の方が男性より14ポイント高く、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性の方が男性より12ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性の40歳以上のすべての年代で9割台となっている。「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」は男性30～39歳で8割近くとなっている。

ごみを減らす活動の取り組み内容－性別／年齢／性別×年齢

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,263	買物袋の持参 86.9	食品ロスを減らす取組 63.2	使い捨て商品は使わない 46.6	集団回収等の活用 43.5	家具や電気製品の修理 39.0
性別	男性	529	買物袋の持参 80.0	食品ロスを減らす取組 60.7	集団回収等の活用 42.3	家具や電気製品の修理 41.6	使い捨て商品は使わない 39.1
	女性	711	買物袋の持参 91.8	食品ロスを減らす取組 65.1	使い捨て商品は使わない 53.2	集団回収等の活用 44.2	家具や電気製品の修理 37.1
年齢	18～29歳	103	買物袋の持参 77.7	食品ロスを減らす取組 60.2	使い捨て商品は使わない 44.7	家具や電気製品の修理 30.1	集団回収等の活用 18.4
	30～39歳	175	買物袋の持参 84.6	食品ロスを減らす取組 67.4	使い捨て商品は使わない 50.9	家具や電気製品の修理 41.1	集団回収等の活用 28.0
	40～49歳	262	買物袋の持参 85.1	食品ロスを減らす取組 63.7	使い捨て商品は使わない 51.9	家具や電気製品の修理 40.5	集団回収等の活用 37.4
	50～59歳	224	買物袋の持参 87.5	食品ロスを減らす取組 62.5	使い捨て商品は使わない 50.9	家具や電気製品の修理 42.9	集団回収等の活用 39.7
	60～69歳	197	買物袋の持参 93.4	食品ロスを減らす取組 63.5	集団回収等の活用 56.9	使い捨て商品は使わない 52.3	家具や電気製品の修理 39.1
	70歳以上	281	買物袋の持参 87.9	食品ロスを減らす取組 61.6	集団回収等の活用 61.2	家具や電気製品の修理 36.3	使い捨て商品は使わない 34.5
男性×年齢	18～29歳	45	買物袋の持参 64.4	食品ロスを減らす取組 55.6	使い捨て商品は使わない 46.7	家具や電気製品の修理 44.4	地域のリサイクル活動に協力 22.2
	30～39歳	70	買物袋の持参 82.9	食品ロスを減らす取組 77.1	使い捨て商品は使わない 44.3	家具や電気製品の修理 41.4	生ごみの堆肥化 24.3
	40～49歳	120	買物袋の持参 75.8	食品ロスを減らす取組 58.3	使い捨て商品は使わない 41.7	家具や電気製品の修理 39.2	集団回収等の活用 34.2
	50～59歳	103	買物袋の持参 82.5	食品ロスを減らす取組 57.3	家具や電気製品の修理 44.7	使い捨て商品は使わない 43.7	集団回収等の活用 41.7
	60～69歳	82	買物袋の持参 86.6	食品ロスを減らす取組 57.3	集団回収等の活用 54.9	家具や電気製品の修理 40.2	使い捨て商品は使わない 39.0
	70歳以上	109	買物袋の持参 81.7	集団回収等の活用 64.2	食品ロスを減らす取組 60.6	家具や電気製品の修理 41.3	使い捨て商品は使わない 25.7
女性×年齢	18～29歳	58	買物袋の持参 87.9	食品ロスを減らす取組 63.8	使い捨て商品は使わない 43.1	家具や電気製品の修理 19.0	集団回収等の活用 17.2
	30～39歳	104	買物袋の持参 85.6	食品ロスを減らす取組 60.6	使い捨て商品は使わない 55.8	家具や電気製品の修理 41.3	集団回収等の活用 31.7
	40～49歳	142	買物袋の持参 93.0	食品ロスを減らす取組 68.3	使い捨て商品は使わない 60.6	家具や電気製品の修理 41.5	生ごみの堆肥化／集団回収等の活用 40.1
	50～59歳	120	買物袋の持参 91.7	食品ロスを減らす取組 67.5	使い捨て商品は使わない 57.5	家具や電気製品の修理 41.7	集団回収等の活用 37.5
	60～69歳	115	買物袋の持参 98.3	食品ロスを減らす取組 67.8	使い捨て商品は使わない 61.7	集団回収等の活用 58.3	家具や電気製品の修理 38.3
	70歳以上	172	買物袋の持参 91.9	食品ロスを減らす取組 62.2	集団回収等の活用 59.3	使い捨て商品は使わない 40.1	家具や電気製品の修理 33.1

第4章 調査結果の分析 3 ごみ・リサイクル

4 交通

-
- (1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じる事
 - (2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの
 - (3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え
 - (4) 自転車利用について区が取り組むべき施策
-

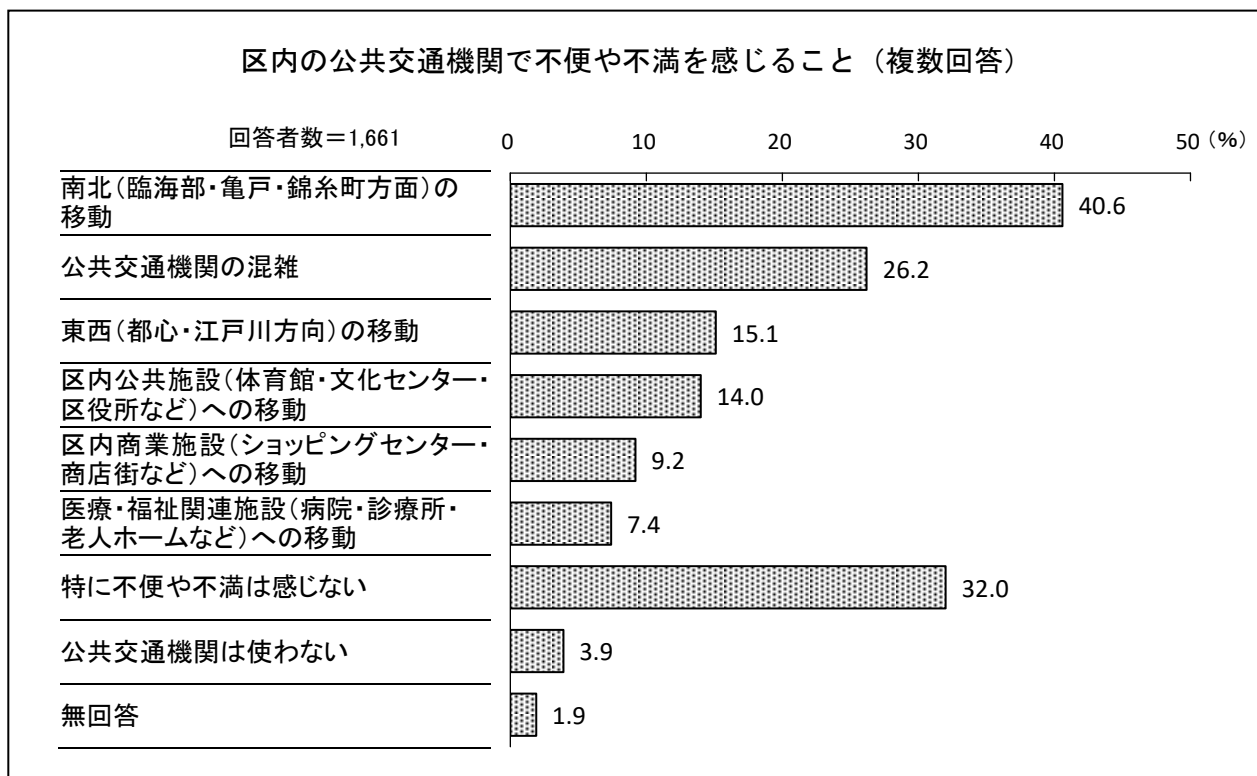
4 交通

(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」がほぼ4割

問8	あなたは、区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることはありませんか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。（回答者数=1,661）
1	東西（都心・江戸川方向）の移動 15.1%
2	南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動 40.6%
3	区内公共施設（体育館・文化センター・区役所など）への移動 14.0%
4	医療・福祉関連施設（病院・診療所・老人ホームなど）への移動 7.4%
5	区内商業施設（ショッピングセンター・商店街など）への移動 9.2%
6	公共交通機関の混雑 26.2%
7	特に不便や不満は感じない 32.0%
8	公共交通機関は使わない 3.9%
	無回答 1.9%

区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（40.6%）がほぼ4割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（26.2%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動」（15.1%）と続いている。一方、「特に不便や不満は感じない」（32.0%）は3割を超えている。



区内の公共交通機関で不便や不満を感じること一地区

地区でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は豊洲地区と南砂地区で5割を超え、「公共交通機関の混雑」は南砂地区で4割を超えている。「特に不便や不満は感じない」は白河・小松橋地区と富岡・東陽地区で4割前後となっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること一地区

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない
全体		1,661	南北の移動 40.6	公共交通機関の混雑 26.2	東西の移動 15.1	区内公共施設への移動 14.0	区内商業施設への移動 9.2	32.0	3.9
地区	白河・小松橋	288	南北の移動 28.5	公共交通機関の混雑 19.1	区内公共施設への移動 15.3	区内商業施設への移動 10.1	東西の移動 9.0	41.3	3.8
	富岡・東陽	257	南北の移動 35.8	公共交通機関の混雑 29.6	東西の移動/区内商業施設への移動	11.7	医療・福祉関連施設への移動 8.9	38.1	4.3
	豊洲	338	南北の移動 53.3	区内公共施設への移動 21.6	東西の移動 20.1	公共交通機関の混雑 17.5	医療・福祉関連施設への移動 6.5	23.7	4.1
	亀戸	178	南北の移動 42.7	公共交通機関の混雑 29.2	区内公共施設への移動 18.0	東西の移動 11.8	区内商業施設への移動 7.9	30.9	6.2
	大島	205	南北の移動 40.5	公共交通機関の混雑 26.8	区内公共施設への移動 12.7	区内商業施設への移動 11.7	東西の移動 10.7	32.7	3.4
	砂町	231	南北の移動 36.4	公共交通機関の混雑 33.3	東西の移動 20.8	区内公共施設への移動 10.4	医療・福祉関連施設への移動/区内商業施設への移動 9.5	28.6	2.2
	南砂	137	南北の移動 52.6	公共交通機関の混雑 43.1	東西の移動 21.9	区内公共施設への移動 12.4	医療・福祉関連施設への移動 9.5	22.6	2.2

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所など）への移動」は女性の方が男性より4ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は男性40～49歳、男性50～59歳、女性40～49歳で5割となっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

(%)

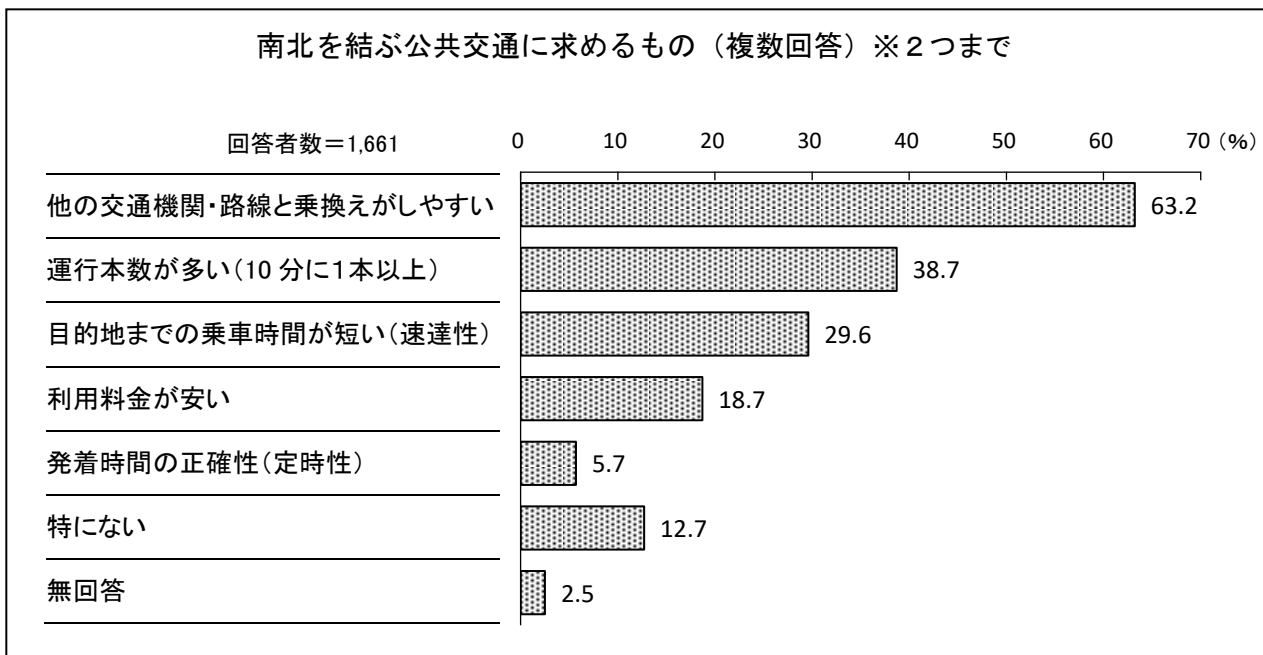
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない
全体		1,661	南北の移動 40.6	公共交通機関の混雑 26.2	東西の移動 15.1	区内公共施設への移動 14.0	区内商業施設への移動 9.2	32.0	3.9
性別	男性	716	南北の移動 42.6	公共交通機関の混雑 26.1	東西の移動 14.5	区内公共施設への移動 11.6	区内商業施設への移動 8.5	28.9	4.6
	女性	919	南北の移動 39.4	公共交通機関の混雑 26.8	区内公共施設への移動 16.0	東西の移動 15.5	区内商業施設への移動 9.9	33.9	3.0
年齢	18～29歳	169	南北の移動 34.9	公共交通機関の混雑 27.2	東西の移動 14.8	区内商業施設への移動 7.7	区内公共施設への移動 4.7	36.7	3.0
	30～39歳	271	南北の移動 44.6	公共交通機関の混雑 34.7	東西の移動 17.0	区内商業施設への移動 12.9	区内公共施設への移動 12.2	24.7	2.6
	40～49歳	343	南北の移動 49.9	公共交通機関の混雑 29.7	区内公共施設への移動 15.7	東西の移動 13.7	医療・福祉関連施設への移動 6.4	25.1	3.8
	50～59歳	287	南北の移動 48.1	公共交通機関の混雑 28.9	東西の移動 17.4	区内公共施設への移動 11.5	区内商業施設への移動 11.1	30.0	2.4
	60～69歳	235	南北の移動 38.7	公共交通機関の混雑 28.1	区内公共施設への移動 19.1	東西の移動 13.6	区内商業施設への移動 11.1	31.5	6.4
	70歳以上	333	南北の移動 26.7	区内公共施設への移動 17.1	東西の移動 13.8	公共交通機関の混雑 12.6	医療・福祉関連施設への移動 12.0	43.2	4.5
男性×年齢	18～29歳	67	南北の移動 37.3	公共交通機関の混雑 19.4	東西の移動 7.5	区内商業施設への移動 6.0	区内公共施設への移動／医療・福祉関連施設への移動 3.0	41.8	1.5
	30～39歳	115	南北の移動 42.6	公共交通機関の混雑 41.7	東西の移動 15.7	区内商業施設への移動 9.6	区内公共施設への移動 7.8	20.9	3.5
	40～49歳	164	南北の移動 50.0	公共交通機関の混雑 28.0	東西の移動 13.4	区内公共施設への移動 11.0	区内商業施設への移動 6.7	26.2	4.3
	50～59歳	136	南北の移動 50.0	公共交通機関の混雑 25.7	東西の移動 16.9	区内商業施設への移動 8.8	区内公共施設への移動 6.6	26.5	3.7
	60～69歳	99	南北の移動 40.4	公共交通機関の混雑 26.3	区内公共施設への移動 24.2	東西の移動 15.2	医療・福祉関連施設への移動／区内商業施設への移動 13.1	29.3	10.1
	70歳以上	134	南北の移動 29.9	東西の移動／区内公共施設への移動 15.7	医療・福祉関連施設への移動	公共交通機関の混雑 13.4		35.1	4.5
女性×年齢	18～29歳	101	南北の移動／公共交通機関の混雑 32.7	東西の移動 19.8	区内商業施設への移動 8.9	区内公共施設への移動 5.9		33.7	4.0
	30～39歳	155	南北の移動 45.8	公共交通機関の混雑 29.7	東西の移動 18.1	区内公共施設への移動／区内商業施設への移動 15.5		27.7	1.9
	40～49歳	178	南北の移動 50.0	公共交通機関の混雑 31.5	区内公共施設への移動 20.2	東西の移動 14.0	医療・福祉関連施設への移動 9.0	24.2	2.8
	50～59歳	150	南北の移動 46.0	公共交通機関の混雑 31.3	東西の移動 18.0	区内公共施設への移動 16.0	区内商業施設への移動 13.3	33.3	1.3
	60～69歳	136	南北の移動 37.5	公共交通機関の混雑 29.4	区内公共施設への移動 15.4	東西の移動 12.5	区内商業施設への移動 9.6	33.1	3.7
	70歳以上	199	南北の移動 24.6	区内公共施設への移動 18.1	東西の移動 12.6	公共交通機関の混雑 12.1	医療・福祉関連施設への移動 9.5	48.7	4.5

(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割を超える

問9	区では、南北を結ぶ公共交通の充実を重点課題として位置付け、有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)やバス路線の拡充などを検討しています。あなたが、南北を結ぶ公共交通に求めるものを、次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。(回答者数=1,661)
1	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい 63.2%
2	目的地までの乗車時間が短い(速達性) 29.6%
3	運行本数が多い(10分に1本以上) 38.7%
4	発着時間の正確性(定時性) 5.7%
5	利用料金が安い 18.7%
6	特にない 12.7%
	無回答 2.5%

南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(63.2%)が6割を超えて最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(38.7%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(29.6%)と続いている。



南北を結ぶ公共交通に求めるもの—地区

地区でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は豊洲地区、大島地区、南砂地区で7割近くとなっている。「運行本数が多い(10分に1本以上)」は豊洲地区、砂町地区で4割を超えている。

南北を結ぶ公共交通に求めるもの—地区

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,661	他の交通機関へ乗換え 63.2	運行本数が多い 38.7	乗車時間が短い 29.6	利用料金が安い 18.7	発着時間の正確性 5.7
地区	白河・小松橋	他の交通機関へ乗換え 62.2	運行本数が多い 36.8	乗車時間が短い 25.7	利用料金が安い 21.5	発着時間の正確性 4.9
	富岡・東陽	他の交通機関へ乗換え 60.7	運行本数が多い 39.3	乗車時間が短い 28.4	利用料金が安い 20.2	発着時間の正確性 6.2
	豊洲	他の交通機関へ乗換え 66.6	運行本数が多い 41.7	乗車時間が短い 34.6	利用料金が安い 19.8	発着時間の正確性 5.9
	亀戸	他の交通機関へ乗換え 61.8	乗車時間が短い／運行本数が多い 34.3		利用料金が安い 18.5	発着時間の正確性 5.1
	大島	他の交通機関へ乗換え 67.3	運行本数が多い 37.6	乗車時間が短い 27.8	利用料金が安い 14.6	発着時間の正確性 4.4
	砂町	他の交通機関へ乗換え 60.6	運行本数が多い 42.9	乗車時間が短い 31.6	利用料金が安い 16.0	発着時間の正確性 6.9
	南砂	他の交通機関へ乗換え 67.2	運行本数が多い 38.7	乗車時間が短い 24.1	利用料金が安い 19.7	発着時間の正確性 5.1

南北を結ぶ公共交通に求めるもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、大きな差は見られない。

性別×年齢でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は女性 40～49 歳、女性 60～69 歳で 7 割を超え、「運行本数が多い(10 分に 1 本以上)」は女性 30～39 歳、女性 40～49 歳で 5 割近くとなっている。

南北を結ぶ公共交通に求めるもの－性別／年齢／性別×年齢

(%)

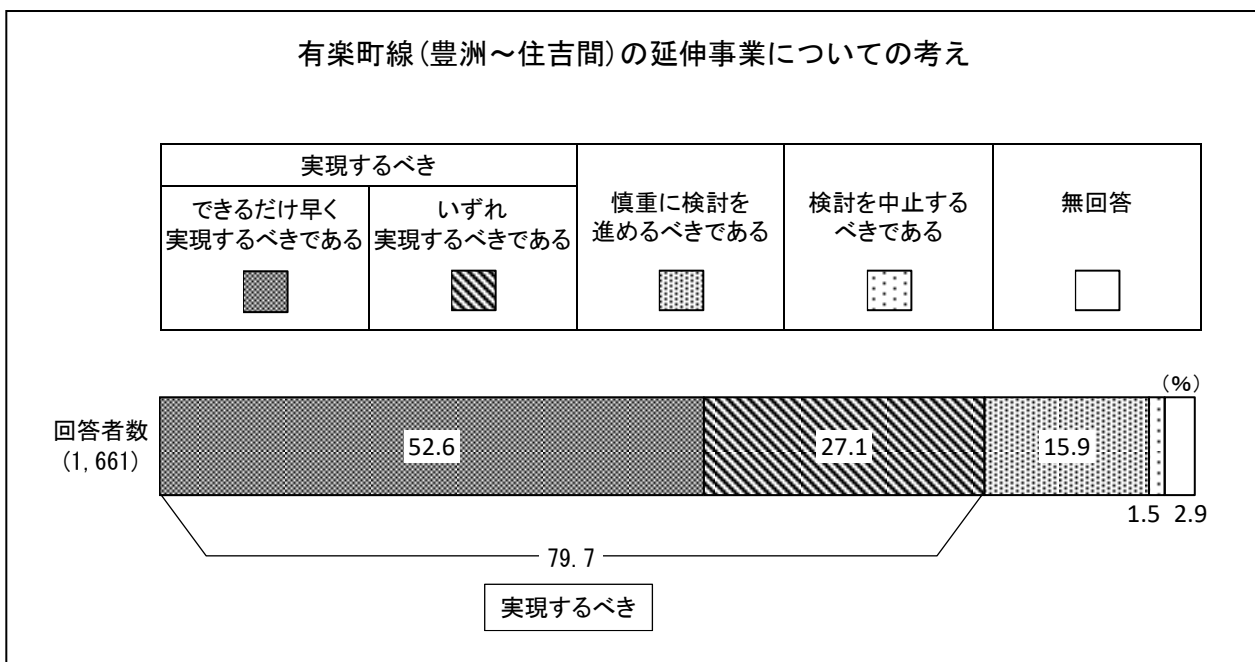
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,661	他の交通機関へ乗換え 63.2	運行本数が多い 38.7	乗車時間が短い 29.6	利用料金が安い 18.7	発着時間の正確性 5.7
性別	男性	716	他の交通機関へ乗換え 61.9	運行本数が多い 37.2	乗車時間が短い 30.3	利用料金が安い 19.4	発着時間の正確性 7.0
	女性	919	他の交通機関へ乗換え 64.9	運行本数が多い 40.5	乗車時間が短い 29.4	利用料金が安い 18.3	発着時間の正確性 4.5
年齢	18～29歳	169	他の交通機関へ乗換え 65.7	乗車時間が短い 36.1	運行本数が多い 35.5	利用料金が安い 17.8	発着時間の正確性 7.1
	30～39歳	271	他の交通機関へ乗換え 65.3	運行本数が多い 44.3	乗車時間が短い 36.5	利用料金が安い 17.7	発着時間の正確性 4.4
	40～49歳	343	他の交通機関へ乗換え 67.9	運行本数が多い 46.4	乗車時間が短い 33.5	利用料金が安い 17.5	発着時間の正確性 3.2
	50～59歳	287	他の交通機関へ乗換え 67.2	運行本数が多い 40.8	乗車時間が短い 32.8	利用料金が安い 26.1	発着時間の正確性 3.5
	60～69歳	235	他の交通機関へ乗換え 66.8	運行本数が多い 36.6	乗車時間が短い 26.8	利用料金が安い 22.1	発着時間の正確性 6.4
	70歳以上	333	他の交通機関へ乗換え 51.1	運行本数が多い 28.8	乗車時間が短い 17.1	利用料金が安い 12.6	発着時間の正確性 9.3
性別×年齢	18～29歳	67	他の交通機関へ乗換え 64.2	乗車時間が短い 35.8	運行本数が多い 32.8	利用料金が安い 19.4	発着時間の正確性 9.0
	30～39歳	115	他の交通機関へ乗換え 68.7	運行本数が多い 40.9	乗車時間が短い 30.4	利用料金が安い 18.3	発着時間の正確性 5.2
	40～49歳	164	他の交通機関へ乗換え 64.0	運行本数が多い 45.1	乗車時間が短い 35.4	利用料金が安い 17.1	発着時間の正確性 4.3
	50～59歳	136	他の交通機関へ乗換え 65.4	運行本数が多い 40.4	乗車時間が短い 33.1	利用料金が安い 21.3	発着時間の正確性 5.1
	60～69歳	99	他の交通機関へ乗換え 58.6	乗車時間が短い／運行本数が多い 30.3	乗車時間が短い 30.3	利用料金が安い 26.3	発着時間の正確性 10.1
	70歳以上	134	他の交通機関へ乗換え 50.7	運行本数が多い 28.4	乗車時間が短い 18.7	利用料金が安い 15.7	発着時間の正確性 10.4
性別×年齢	18～29歳	101	他の交通機関へ乗換え 66.3	運行本数が多い 37.6	乗車時間が短い 35.6	利用料金が安い 16.8	発着時間の正確性 5.9
	30～39歳	155	他の交通機関へ乗換え 62.6	運行本数が多い 47.1	乗車時間が短い 41.3	利用料金が安い 16.8	発着時間の正確性 3.9
	40～49歳	178	他の交通機関へ乗換え 71.9	運行本数が多い 47.8	乗車時間が短い 32.0	利用料金が安い 18.0	発着時間の正確性 2.2
	50～59歳	150	他の交通機関へ乗換え 68.7	運行本数が多い 41.3	乗車時間が短い 32.0	利用料金が安い 30.7	発着時間の正確性 2.0
	60～69歳	136	他の交通機関へ乗換え 72.8	運行本数が多い 41.2	乗車時間が短い 24.3	利用料金が安い 19.1	発着時間の正確性 3.7
	70歳以上	199	他の交通機関へ乗換え 51.3	運行本数が多い 29.1	乗車時間が短い 16.1	利用料金が安い 10.6	発着時間の正確性 8.5

(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇「実現すべき」は8割

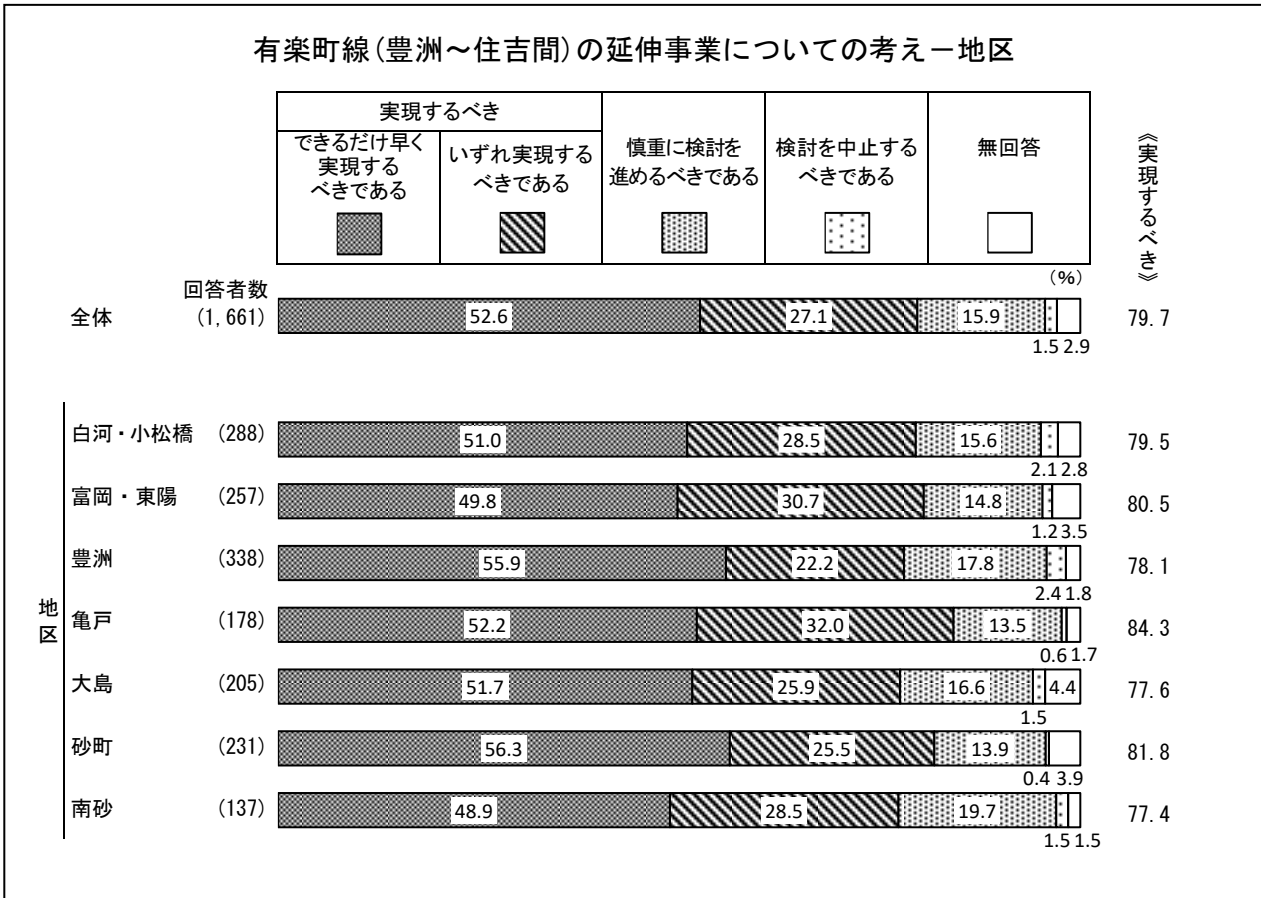
問10	区では、南北移動の利便性向上、東西線の混雑緩和などが期待される有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)の早期実現を目指しています。あなたは有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業について、どのように考えていますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,661)	
1	できるだけ早く実現すべきである	52.6%
2	いずれ実現すべきである	27.1%
3	慎重に検討を進めるべきである	15.9%
4	検討を中止するべきである	1.5%
	無回答	2.9%

有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現すべきである」(52.6%)と「いずれ実現すべきである」(27.1%)の2つを合わせた「実現すべき」(79.7%)が8割となっている。また、「慎重に検討を進めるべきである」(15.9%)は1割台半ばとなっている。



有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え—地区

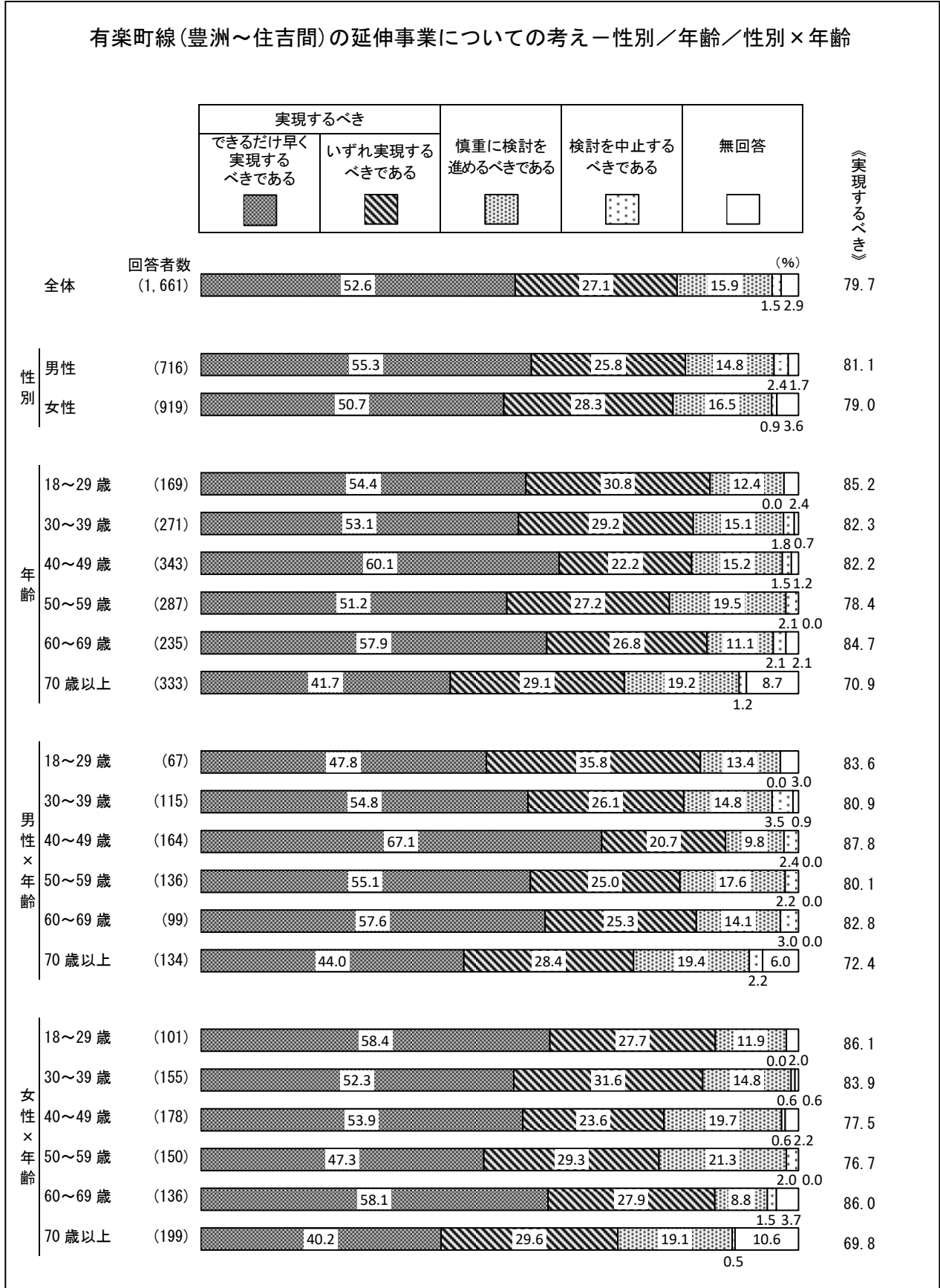
地区で見ると、「できるだけ早く実現するべきである」は豊洲地区、砂町地区で5割台半ばとなっている。《実現するべき》はすべての地区で8割前後となっている。一方、「慎重に検討を進めるべきである」は南砂地区で2割、豊洲地区、大島地区で2割近くとなっている。



有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、「できるだけ早く実現するべきである」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性別×年齢で見ると、「できるだけ早く実現するべきである」は男性40～49歳で7割近く、《実現するべき》は男性40～49歳で9割近く、女性18～29歳、女性60～69歳で8割台半ばとなっている。



第4章
調査結果の分析
4 交通

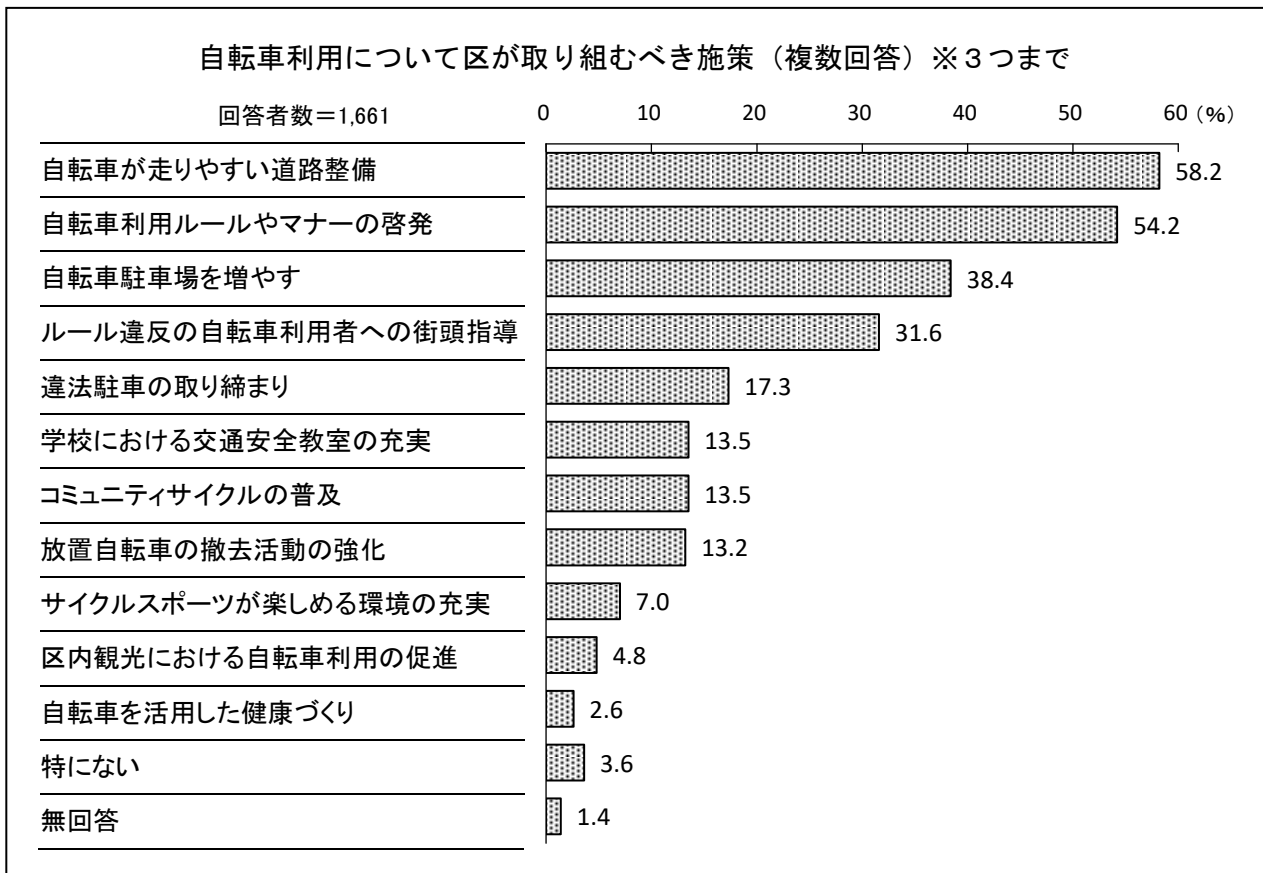
(4) 自転車利用について区が取り組むべき施策

新規

◇「自転車が走りやすい道路整備」が6割近く

問11	あなたが、自転車利用に関して、区で重点的に取り組むべきだと思う施策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。(回答者数=1,661)				
1	自転車利用ルールやマナーの啓発	54.2%	7	放置自転車の撤去活動の強化	13.2%
2	学校における交通安全教室の充実	13.5%	8	コミュニティサイクルの普及	13.5%
3	ルール違反の自転車利用者への街頭指導	31.6%	9	自転車を活用した健康づくり	2.6%
4	違法駐車を取り締まり	17.3%	10	サイクルスポーツが楽しめる環境の充実	7.0%
5	自転車が走りやすい道路整備	58.2%	11	区内観光における自転車利用の促進	4.8%
6	自転車駐車を増やす	38.4%	12	特にない	3.6%
				無回答	1.4%

自転車利用に関して区で重点的に取り組むべきだと思う施策について聞いたところ、「自転車が走りやすい道路整備」(58.2%)が6割近くで最も多く、次いで「自転車利用ルールやマナーの啓発」(54.2%)、「自転車駐車を増やす」(38.4%)と続いている。



自転車利用について区が取り組むべき施策－地区

地区で見ると、「自転車が走りやすい道路整備」は白河・小松橋地区、砂町地区で6割を超えている。「自転車利用ルールやマナーの啓発」は亀戸地区、砂町地区、南砂地区で6割近く、「自転車駐車を増やす」は白河・小松橋地区でほぼ5割となっている。

自転車利用について区が取り組むべき施策－地区

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,661	自転車が走りやすい道路整備 58.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 54.2	自転車駐車を増やす 38.4	ルール違反利用者への街頭指導 31.6	違法駐車取り締まり 17.3
地区	白河・小松橋	自転車が走りやすい道路整備 61.5	自転車駐車を増やす 50.7	自転車利用ルールやマナーの啓発 47.9	ルール違反利用者への街頭指導 25.0	コミュニティサイクルの普及 15.6
	富岡・東陽	自転車が走りやすい道路整備 56.0	自転車利用ルールやマナーの啓発 54.1	自転車駐車を増やす 36.6	ルール違反利用者への街頭指導 31.9	コミュニティサイクルの普及 18.3
	豊洲	自転車が走りやすい道路整備 54.7	自転車利用ルールやマナーの啓発 53.0	自転車駐車を増やす 32.0	ルール違反利用者への街頭指導 29.3	コミュニティサイクルの普及 19.8
	亀戸	自転車利用ルールやマナーの啓発 58.4	自転車が走りやすい道路整備 55.1	自転車駐車を増やす 39.3	ルール違反利用者への街頭指導 35.4	学校における交通安全教室の充実 15.2
	大島	自転車が走りやすい道路整備 58.5	自転車利用ルールやマナーの啓発 55.1	自転車駐車を増やす 38.5	ルール違反利用者への街頭指導 35.1	違法駐車取り締まり 24.4
	砂町	自転車が走りやすい道路整備 61.0	自転車利用ルールやマナーの啓発 58.4	自転車駐車を増やす 38.5	ルール違反利用者への街頭指導 35.5	違法駐車取り締まり 19.9
	南砂	自転車が走りやすい道路整備 59.9	自転車利用ルールやマナーの啓発 57.7	ルール違反利用者への街頭指導／自転車駐車を増やす 32.1	放置自転車の撤去活動の強化 21.2	

自転車利用について区が取り組むべき施策－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「自転車が走りやすい道路整備」は女性の方が男性より10ポイント高く、「自転車駐車を増やす」も女性の方が男性より7ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「自転車が走りやすい道路整備」は男女とも30～39歳が7割台となっている。「自転車利用ルールやマナーの啓発」は男性60～69歳でほぼ7割となっている。

自転車利用について区が取り組むべき施策－性別／年齢／性別×年齢

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,661	自転車が走りやすい道路整備 58.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 54.2	自転車駐車を増やす 38.4	ルール違反利用者への街頭指導 31.6	違法駐車取り締まり 17.3
性別	男性	716	自転車利用ルールやマナーの啓発 55.3	自転車が走りやすい道路整備 52.7	自転車駐車を増やす 34.8	ルール違反利用者への街頭指導 33.8	違法駐車取り締まり 19.7
	女性	919	自転車が走りやすい道路整備 62.6	自転車利用ルールやマナーの啓発 53.1	自転車駐車を増やす 41.6	ルール違反利用者への街頭指導 29.6	違法駐車取り締まり 15.7
年齢	18～29歳	169	自転車が走りやすい道路整備 54.4	自転車利用ルールやマナーの啓発 43.2	自転車駐車を増やす 40.8	違法駐車取り締まり 18.3	ルール違反利用者への街頭指導 17.8
	30～39歳	271	自転車が走りやすい道路整備 74.2	自転車駐車を増やす 47.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 43.5	ルール違反利用者への街頭指導 24.0	コミュニティサイクルの普及 18.8
	40～49歳	343	自転車が走りやすい道路整備 58.3	自転車利用ルールやマナーの啓発 51.6	自転車駐車を増やす 41.1	ルール違反利用者への街頭指導 30.9	コミュニティサイクルの普及 19.0
	50～59歳	287	自転車が走りやすい道路整備 59.2	自転車利用ルールやマナーの啓発 57.5	自転車駐車を増やす 42.2	ルール違反利用者への街頭指導 34.5	コミュニティサイクルの普及 17.4
	60～69歳	235	自転車利用ルールやマナーの啓発 64.7	自転車が走りやすい道路整備 54.9	ルール違反利用者への街頭指導 37.4	自転車駐車を増やす 37.0	学校における交通安全教室の充実 18.3
	70歳以上	333	自転車利用ルールやマナーの啓発 60.4	自転車が走りやすい道路整備 48.0	ルール違反利用者への街頭指導 38.7	自転車駐車を増やす 25.5	放置自転車の撤去活動の強化 21.6
男性×年齢	18～29歳	67	自転車が走りやすい道路整備 50.7	自転車利用ルールやマナーの啓発 49.3	自転車駐車を増やす 32.8	違法駐車取り締まり 25.4	ルール違反利用者への街頭指導 20.9
	30～39歳	115	自転車が走りやすい道路整備 73.9	自転車駐車を増やす 43.5	自転車利用ルールやマナーの啓発 38.3	コミュニティサイクルの普及 23.5	ルール違反利用者への街頭指導／違法駐車取り締まり 19.1
	40～49歳	164	自転車が走りやすい道路整備 53.0	自転車利用ルールやマナーの啓発 50.6	自転車駐車を増やす 37.2	ルール違反利用者への街頭指導 34.1	コミュニティサイクルの普及 19.5
	50～59歳	136	自転車利用ルールやマナーの啓発 62.5	自転車が走りやすい道路整備 50.7	ルール違反利用者への街頭指導 40.4	自転車駐車を増やす 36.0	違法駐車取り締まり／コミュニティサイクルの普及 18.4
	60～69歳	99	自転車利用ルールやマナーの啓発 70.7	ルール違反利用者への街頭指導 46.5	自転車が走りやすい道路整備 42.4	自転車駐車を増やす 31.3	違法駐車取り締まり 18.2
	70歳以上	134	自転車利用ルールやマナーの啓発 59.7	自転車が走りやすい道路整備 44.8	ルール違反利用者への街頭指導 36.6	自転車駐車を増やす 26.9	放置自転車の撤去活動の強化 22.4
女性×年齢	18～29歳	101	自転車が走りやすい道路整備 57.4	自転車駐車を増やす 46.5	自転車利用ルールやマナーの啓発 38.6	ルール違反利用者への街頭指導／コミュニティサイクルの普及 14.9	
	30～39歳	155	自転車が走りやすい道路整備 74.8	自転車駐車を増やす 50.3	自転車利用ルールやマナーの啓発 47.1	ルール違反利用者への街頭指導 27.1	コミュニティサイクルの普及 15.5
	40～49歳	178	自転車が走りやすい道路整備 63.5	自転車利用ルールやマナーの啓発 52.8	自転車駐車を増やす 44.9	ルール違反利用者への街頭指導 27.5	コミュニティサイクルの普及 18.5
	50～59歳	150	自転車が走りやすい道路整備 67.3	自転車利用ルールやマナーの啓発 52.7	自転車駐車を増やす 48.0	ルール違反利用者への街頭指導 29.3	コミュニティサイクルの普及 16.7
	60～69歳	136	自転車が走りやすい道路整備 64.0	自転車利用ルールやマナーの啓発 60.3	自転車駐車を増やす 41.2	ルール違反利用者への街頭指導 30.9	学校における交通安全教室の充実 19.1
	70歳以上	199	自転車利用ルールやマナーの啓発 60.8	自転車が走りやすい道路整備 50.3	ルール違反利用者への街頭指導 40.2	自転車駐車を増やす 24.6	放置自転車の撤去活動の強化 21.1

5 選挙

-
- (1) 東京都議会議員選挙の投票の有無
 - (2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの
 - (3) 投票しなかった理由
 - (4) 「選挙公報」の閲読状況
-

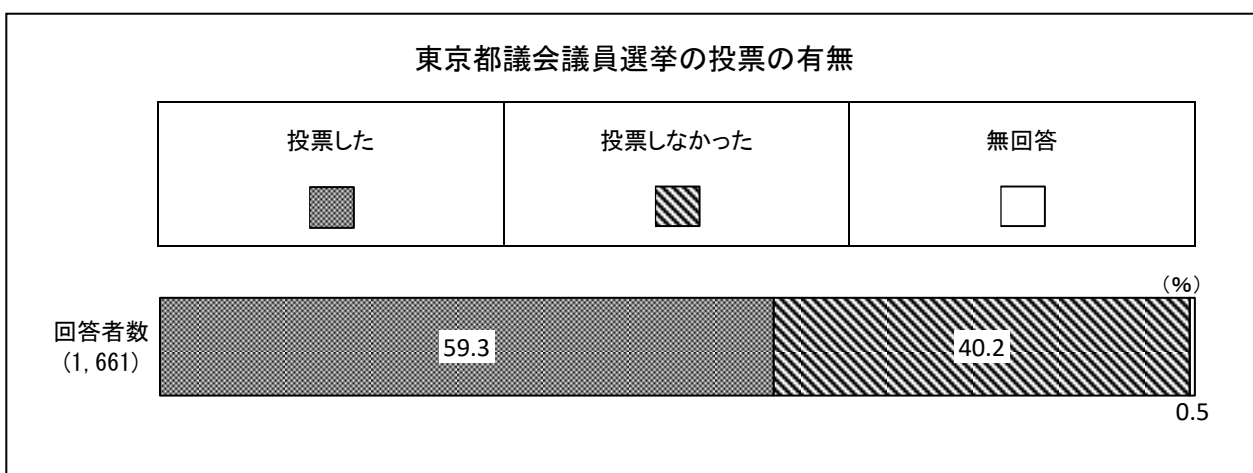
5 選挙

(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無

◇「投票した」がほぼ6割

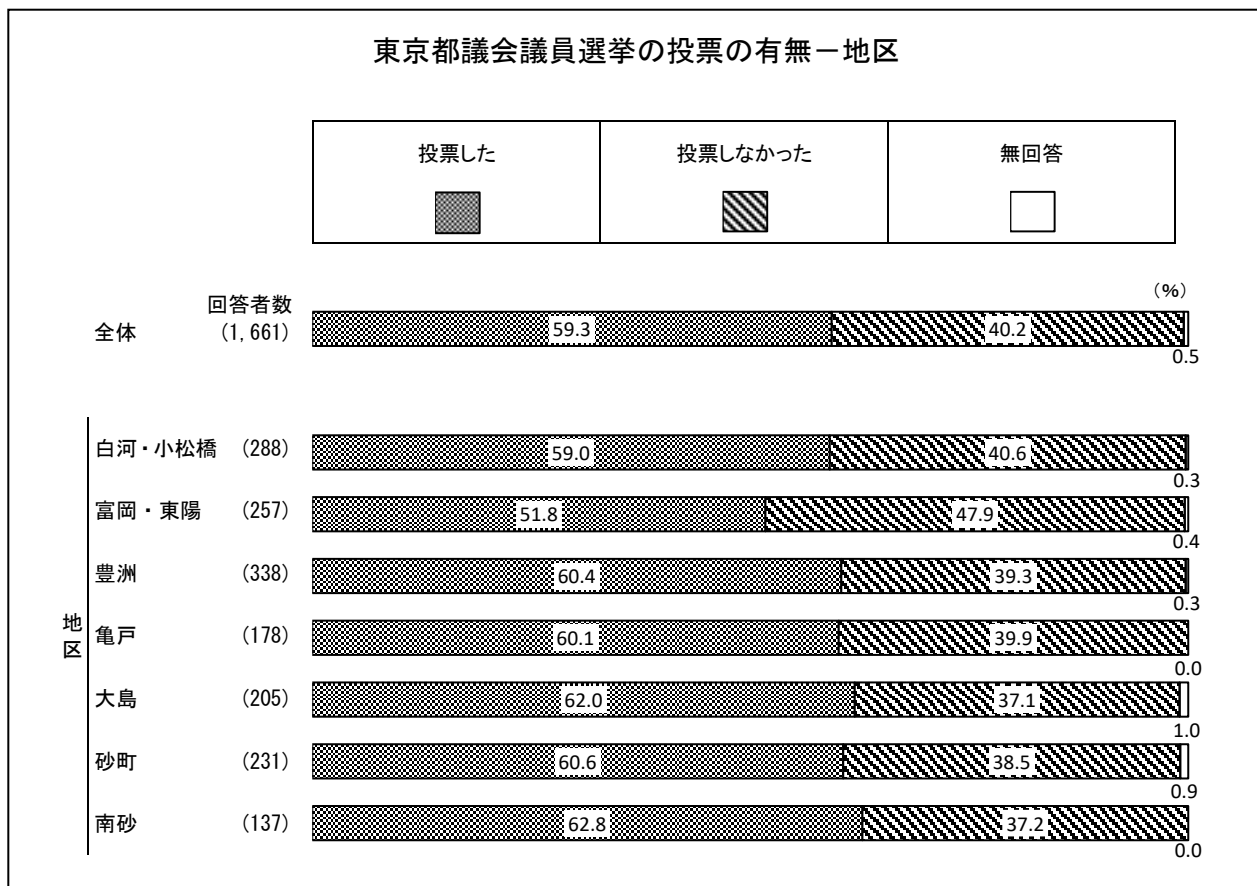
問12	令和3年7月4日は、東京都議会議員選挙の投票日でしたが、あなたは投票しましたか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,661)				
1	投票した	59.3%	2	投票しなかった	40.2%
				無回答	0.5%

令和3年7月4日の東京都議会議員選挙に投票したかを聞いたところ、「投票した」(59.3%)はほぼ6割となっている。なお、実際の東京都議会議員選挙の江東区の投票率は43.89%であった。



東京都議会議員選挙の投票の有無－地区

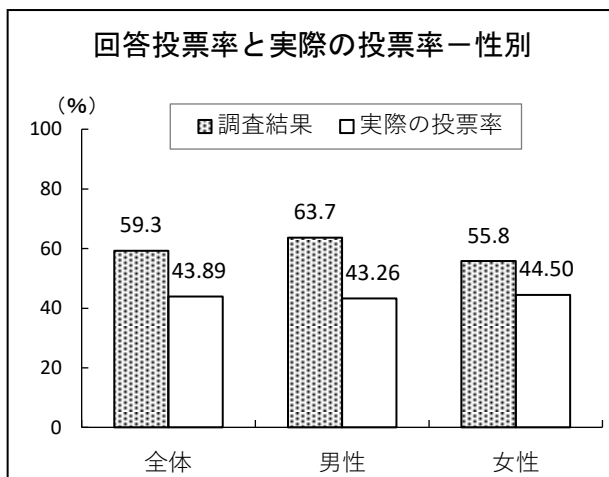
地区で見ると、「投票した」は大島地区、南砂地区で6割を超えている。一方、「投票しなかった」は富岡・東陽地区で5割を超えている。一方、「投票しなかった」は富岡・東陽地区で5割近くとなっている。



回答投票率と実際の投票率－性別

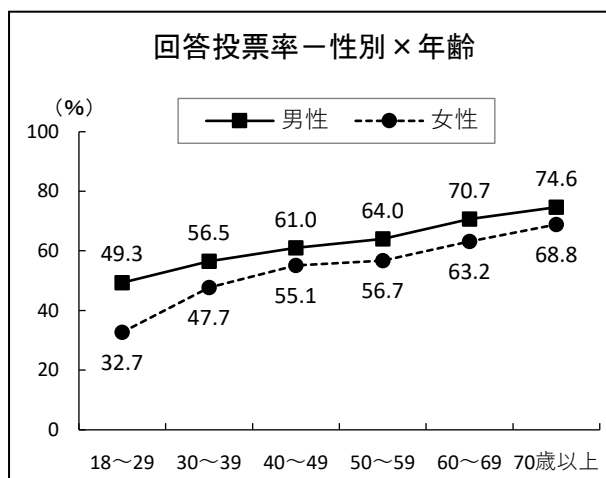
性別で見ると、調査結果は男性の方が女性より8ポイント高いが、実際の投票率は男女で大きな差はみられない。

東京都議会議員選挙の実際の投票率の平均を見ると、男性43.26%、女性44.50%となっている。



回答投票率－性別×年齢

性別×年齢で見ると、すべての年齢で男性の方が女性より投票率が高く、特に18～29歳では男性の方が女性より17ポイント高くなっている。



調査結果による推定投票率—性別×年齢

実際の東京都議会議員選挙の平均投票率は43.89%であり、今回の調査結果（59.3%）とは15ポイントの差がある。

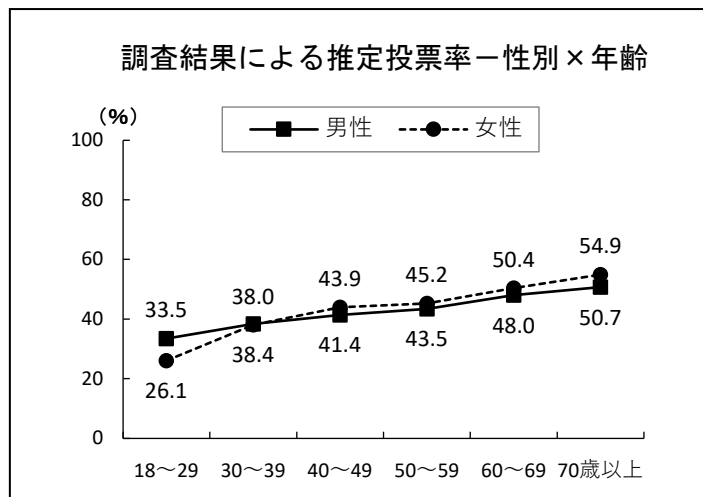
このような形式の質問で、回答が実際の結果と差異が生じることが多いのは、世論調査の回答者は、世論調査に協力しなかった人に比べて区政への関心度が相対的に高いと考えられるため、回答者全体に占める投票した人の割合も高くなることが要因のひとつと考えられる。これらの要因は世論調査では避けがたいものであるが、結果の数値を一定の値としてみる限り、大きな支障はないと考えられる。そこで、性別×年齢による分析を正確にするため、下記の式による補正係数を算出した。

実際の投票率との比較と補正係数

	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率			
調査結果による投票率	59.3 %	男性	0.6791	43.26%	63.7%
実際の投票率	43.89%	女性	0.7975	44.50%	55.8%
		全体	0.7401	43.89%	59.3%

それぞれの性別の補正係数を各年齢層に掛け合わせて、性別×年齢の推定投票率を求めると以下のようなになる。なお、グラフ中の数値については、小数点第2位を四捨五入した。

推定投票率をみると、女性18～29歳で最も低く26.1%、女性70歳以上で最も高く54.9%となっている。また、男女とも高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。

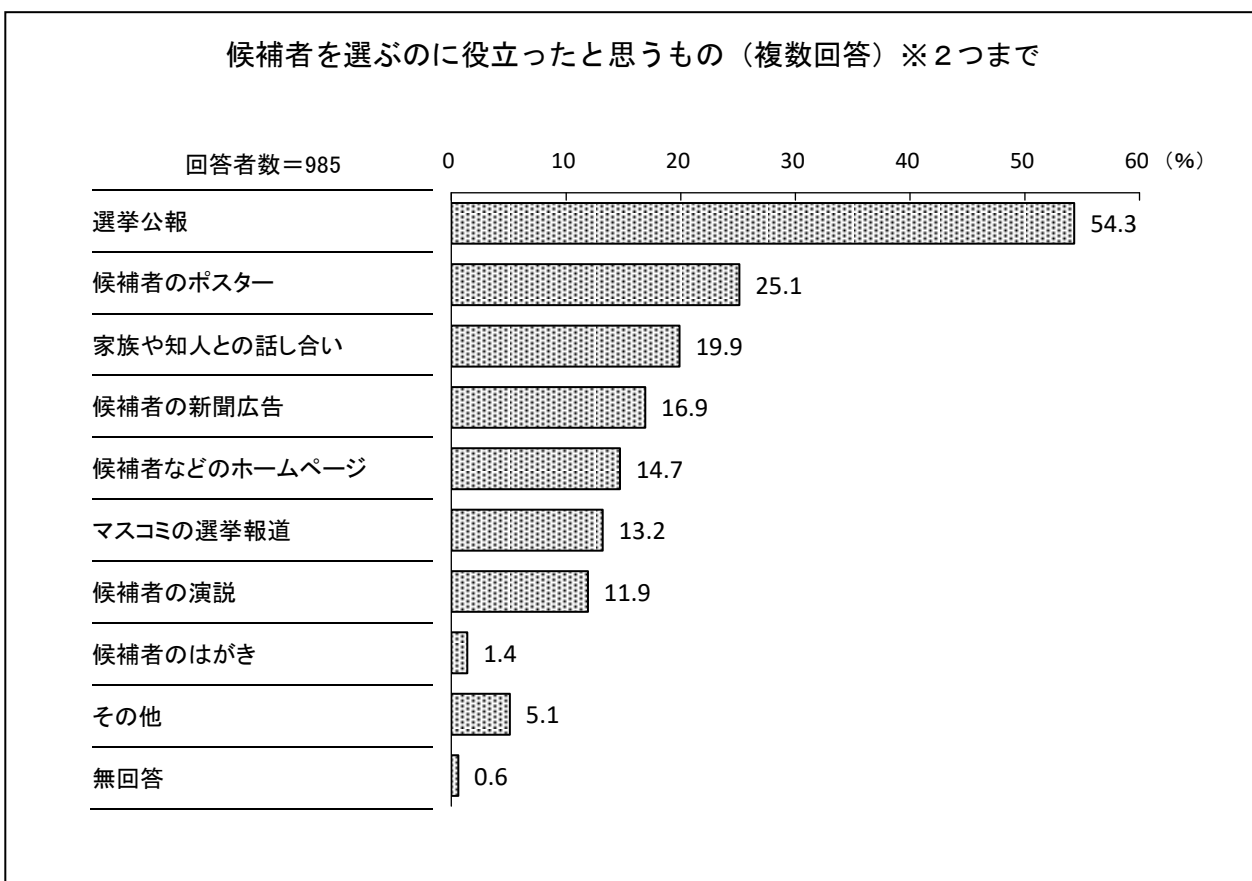


(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

◇「選挙公報」が5割台半ば

問12-1		(問12で、「1 投票した」とお答えの方に) あなたが、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何ですか。 次の中から2つまで選んでください。(回答者数=985)			
1	選挙公報	54.3%	6	マスコミの選挙報道	13.2%
2	候補者のポスター	25.1%	7	家族や知人との話し合い	19.9%
3	候補者のはがき	1.4%	8	候補者などのホームページ	14.7%
4	候補者の演説	11.9%	9	その他	5.1%
5	候補者の新聞広告	16.9%		無回答	0.6%

令和3年7月に行われた東京都議会議員選挙に「投票した」と答えた方(985人)に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」(54.3%)が5割台半ばで最も多く、次いで「候補者のポスター」(25.1%)、「家族や知人との話し合い」(19.9%)と続いている。



候補者を選ぶのに役立つと思うもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「家族や知人との話し合い」は女性の方が男性より8ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、女性18～29歳は「選挙公報」と「家族や知人との話し合い」が3割で同率第1位、その他の性別×年齢は「選挙公報」が第1位で、男性60～69歳で6割台半ば、男性50～59歳で6割を超えている。

候補者を選ぶのに役立つと思うもの－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

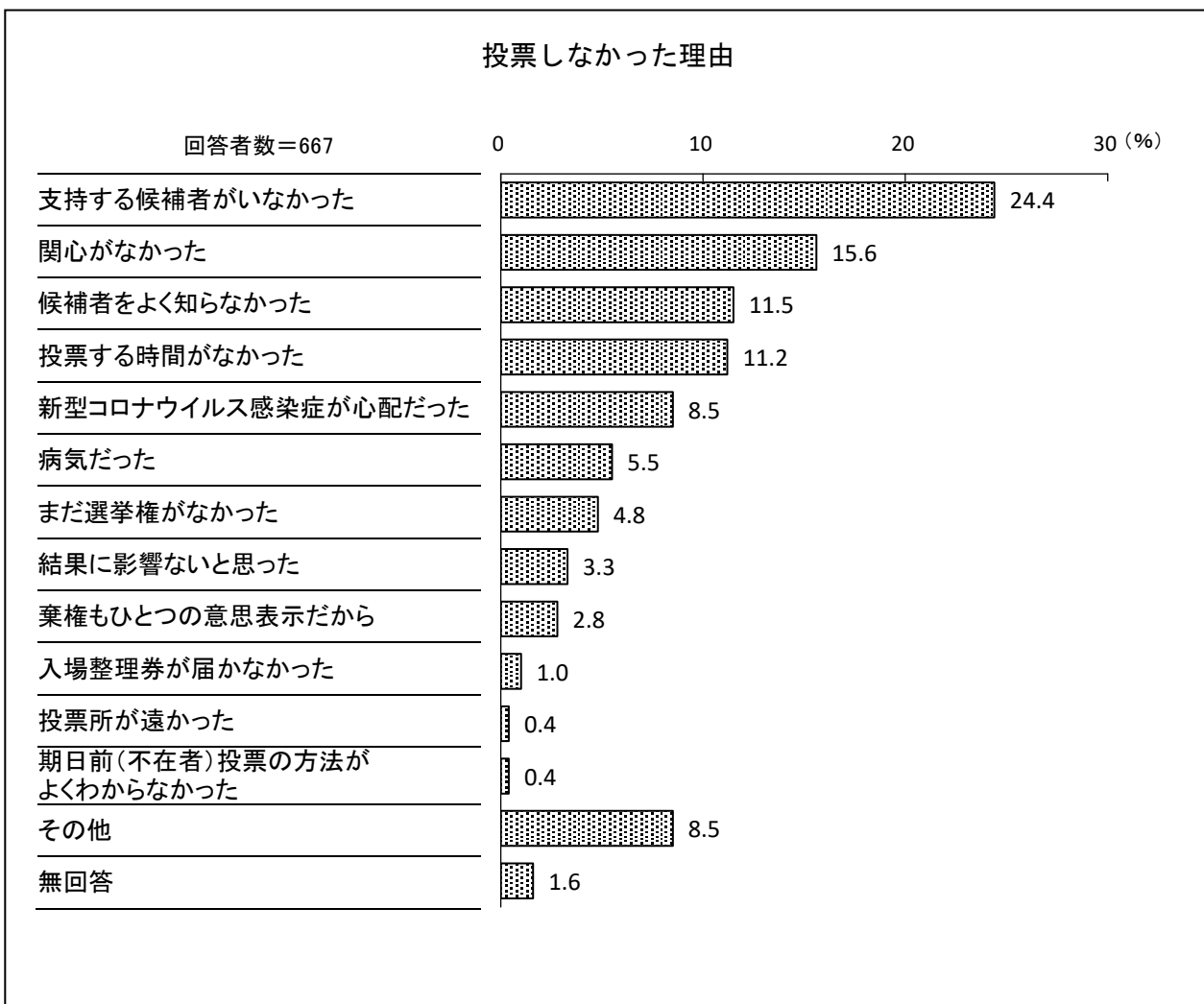
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		985	選挙公報 54.3	候補者のポスター 25.1	家族や知人との話し合い 19.9	候補者の新聞広告 16.9	候補者などのホームページ 14.7
性別	男性	456	選挙公報 56.4	候補者のポスター 26.5	マスコミの選挙報道 16.7	家族や知人との話し合い 15.8	候補者などのホームページ 14.7
	女性	513	選挙公報 52.2	候補者のポスター 23.8	家族や知人との話し合い 23.6	候補者の新聞広告 18.9	候補者などのホームページ 15.0
年齢	18～29歳	67	選挙公報 37.3	候補者などのホームページ 26.9	家族や知人との話し合い 25.4	候補者のポスター 19.4	候補者の新聞広告 10.4
	30～39歳	139	選挙公報 43.2	候補者のポスター 28.8	候補者などのホームページ 25.2	家族や知人との話し合い 15.8	候補者の新聞広告 13.7
	40～49歳	198	選挙公報 54.5	候補者のポスター 29.3	家族や知人との話し合い 16.7	候補者などのホームページ 14.1	候補者の新聞広告 13.6
	50～59歳	172	選挙公報 57.6	候補者の新聞広告 22.1	候補者などのホームページ 18.6	家族や知人との話し合い 18.0	候補者のポスター 17.4
	60～69歳	156	選挙公報 60.9	候補者のポスター 23.7	候補者の新聞広告 23.1	家族や知人との話し合い 20.5	マスコミの選挙報道 16.7
	70歳以上	237	選挙公報 57.8	候補者のポスター 27.4	家族や知人との話し合い 24.9	候補者の演説 17.3	マスコミの選挙報道 15.6
男性×年齢	18～29歳	33	選挙公報 45.5	候補者などのホームページ 30.3	候補者のポスター 21.2	家族や知人との話し合い 18.2	候補者の新聞広告 12.1
	30～39歳	65	選挙公報 46.2	候補者のポスター 32.3	候補者などのホームページ 26.2	マスコミの選挙報道 15.4	家族や知人との話し合い 13.8
	40～49歳	100	選挙公報 52.0	候補者のポスター 34.0	候補者の演説／マスコミの選挙報道／候補者などのホームページ		15.0
	50～59歳	87	選挙公報 63.2	候補者の新聞広告 24.1	家族や知人との話し合い／候補者などのホームページ		候補者のポスター 13.8
	60～69歳	70	選挙公報 65.7	候補者のポスター 25.7	マスコミの選挙報道 24.3	候補者の新聞広告 18.6	家族や知人との話し合い 15.7
	70歳以上	100	選挙公報 58.0	候補者のポスター 29.0	マスコミの選挙報道 23.0	候補者の演説 22.0	家族や知人との話し合い 19.0
女性×年齢	18～29歳	33	選挙公報／家族や知人との話し合い 30.3		候補者などのホームページ 21.2	候補者のポスター 18.2	候補者の新聞広告／マスコミの選挙報道 9.1
	30～39歳	74	選挙公報 40.5	候補者のポスター 25.7	候補者などのホームページ 24.3	家族や知人との話し合い 17.6	候補者の新聞広告 14.9
	40～49歳	98	選挙公報 57.1	候補者のポスター 24.5	家族や知人との話し合い 21.4	候補者の新聞広告 17.3	候補者などのホームページ 13.3
	50～59歳	85	選挙公報 51.8	候補者のポスター 21.2	候補者の新聞広告／候補者などのホームページ		家族や知人との話し合い 18.8
	60～69歳	86	選挙公報 57.0	候補者の新聞広告 26.7	家族や知人との話し合い 24.4	候補者のポスター 22.1	候補者などのホームページ 15.1
	70歳以上	137	選挙公報 57.7	家族や知人との話し合い 29.2	候補者のポスター 26.3	候補者の新聞広告 19.0	候補者の演説 13.9

(3) 投票しなかった理由

◇「支持する候補者がいなかった」が2割台半ば

問12-2	(問12で、「2 投票しなかった」とお答えの方に) あなたが、東京都議会議員選挙で投票しなかった主な理由は何ですか。 次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=667)				
1	支持する候補者がいなかった	24.4%	8	投票所が遠かった	0.4%
2	候補者をよく知らなかった	11.5%	9	関心がなかった	15.6%
3	結果に影響ないと思った	3.3%	10	期日前(不在者)投票の	
4	棄権もひとつの意思表示だから	2.8%		方法がよくわからなかった	0.4%
5	投票する時間がなかった	11.2%	11	入場整理券が届かなかった	1.0%
6	病気だった	5.5%	12	まだ選挙権がなかった	4.8%
7	新型コロナウイルス感染症が		13	その他	8.5%
	心配だった	8.5%		無回答	1.6%

令和3年7月に行われた東京都議会議員選挙に「投票しなかった」と答えた方(667人)に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」(24.4%)が2割台半ばで最も多く、次いで「関心がなかった」(15.6%)、「候補者をよく知らなかった」(11.5%)、「投票する時間がなかった」(11.2%)と続いている。



投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「支持する候補者がいなかった」は男性の方が女性より9ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「支持する候補者がいなかった」は男性50～59歳でほぼ4割となっている。女性18～29歳は「投票する時間がなかった」、「関心がなかった」が2割を超えている。

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

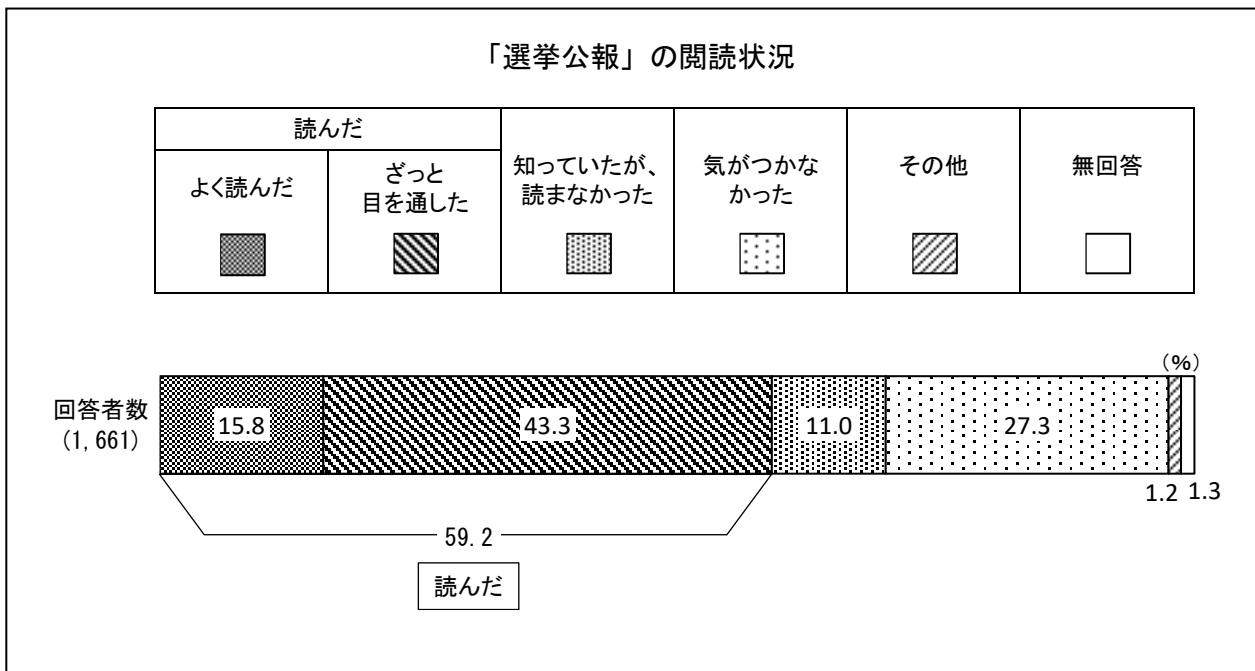
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		667	支持する候補者がいなかった 24.4	関心がなかった 15.6	候補者をよく知らなかった 11.5	投票する時間がなかった 11.2	新型コロナウイルス感染症が心配だった 8.5
性別	男性	257	支持する候補者がいなかった 29.6	関心がなかった 15.2	候補者をよく知らなかった 10.9	投票する時間がなかった 10.9	新型コロナウイルス感染症が心配だった 6.2
	女性	402	支持する候補者がいなかった 21.1	関心がなかった 16.2	候補者をよく知らなかった 11.9	投票する時間がなかった 11.2	新型コロナウイルス感染症が心配だった 10.0
年齢	18～29歳	102	投票する時間がなかった／関心がなかった 21.6	関心がなかった 21.6	支持する候補者がいなかった 19.6	候補者をよく知らなかった 10.8	まだ選挙権がなかった 4.9
	30～39歳	131	関心がなかった 17.6	支持する候補者がいなかった 16.8	投票する時間がなかった 12.2	候補者をよく知らなかった 9.2	まだ選挙権がなかった 8.4
	40～49歳	145	支持する候補者がいなかった 21.4	関心がなかった 18.6	投票する時間がなかった／新型コロナウイルス感染症が心配だった 10.3	候補者をよく知らなかった 9.7	候補者をよく知らなかった 9.7
	50～59歳	115	支持する候補者がいなかった 34.8	候補者をよく知らなかった 13.9	関心がなかった 11.3	投票する時間がなかった 10.4	新型コロナウイルス感染症が心配だった 9.6
	60～69歳	78	支持する候補者がいなかった 28.2	関心がなかった 14.1	新型コロナウイルス感染症が心配だった 12.8	候補者をよく知らなかった／投票する時間がなかった 10.3	候補者をよく知らなかった 10.3
	70歳以上	91	支持する候補者がいなかった 28.6	病気だった 18.7	候補者をよく知らなかった 16.5	新型コロナウイルス感染症が心配だった／関心がなかった 8.8	新型コロナウイルス感染症が心配だった 8.8
性別×年齢	18～29歳	34	支持する候補者がいなかった 32.4	関心がなかった 20.6	投票する時間がなかった 17.6	候補者をよく知らなかった 5.9	結果に影響ないと思った／期日前投票の方法がよくわからなかった／まだ選挙権がなかった 2.9
	30～39歳	49	関心がなかった 20.4	支持する候補者がいなかった 16.3	投票する時間がなかった 14.3	候補者をよく知らなかった／まだ選挙権がなかった 10.2	候補者をよく知らなかった 10.2
	40～49歳	64	支持する候補者がいなかった 26.6	関心がなかった 15.6	投票する時間がなかった 12.5	新型コロナウイルス感染症が心配だった 9.4	結果に影響ないと思った／棄権もひとつの意思表示だから 7.8
	50～59歳	49	支持する候補者がいなかった 40.8	候補者をよく知らなかった 14.3	関心がなかった 12.2	投票する時間がなかった 8.2	結果に影響ないと思った／病気だった／まだ選挙権がなかった 6.1
	60～69歳	29	支持する候補者がいなかった 34.5	関心がなかった 20.7	候補者をよく知らなかった／投票する時間がなかった 10.3	投票する時間がなかった 10.3	病気だった／新型コロナウイルス感染症が心配だった 6.9
	70歳以上	32	支持する候補者がいなかった 31.3	候補者をよく知らなかった／病気だった 21.9	新型コロナウイルス感染症が心配だった 12.5	新型コロナウイルス感染症が心配だった 12.5	結果に影響ないと思った 6.3
女性×年齢	18～29歳	68	投票する時間がなかった 23.5	関心がなかった 22.1	支持する候補者がいなかった／候補者をよく知らなかった 13.2	候補者をよく知らなかった 13.2	まだ選挙権がなかった 5.9
	30～39歳	81	支持する候補者がいなかった 17.3	関心がなかった 16.0	投票する時間がなかった 11.1	候補者をよく知らなかった／新型コロナウイルス感染症が心配だった 8.6	候補者をよく知らなかった／新型コロナウイルス感染症が心配だった 8.6
	40～49歳	80	関心がなかった 21.3	支持する候補者がいなかった 17.5	候補者をよく知らなかった 12.5	新型コロナウイルス感染症が心配だった 10.0	投票する時間がなかった 8.8
	50～59歳	65	支持する候補者がいなかった 30.8	新型コロナウイルス感染症が心配だった 15.4	候補者をよく知らなかった 13.8	投票する時間がなかった／関心がなかった 10.8	投票する時間がなかった 10.8
	60～69歳	49	支持する候補者がいなかった 24.5	新型コロナウイルス感染症が心配だった 16.3	候補者をよく知らなかった／投票する時間がなかった 10.2	投票する時間がなかった 10.2	投票する時間がなかった 10.2
	70歳以上	59	支持する候補者がいなかった 27.1	病気だった 16.9	候補者をよく知らなかった／関心がなかった 13.6	候補者をよく知らなかった 13.6	新型コロナウイルス感染症が心配だった 6.8

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」はほぼ6割

問13	区の選挙管理委員会では、東京都議会議員選挙の「選挙公報」を各戸配布し、また、区内各施設や区内各駅に公報スタンドを設置しましたが、あなたはお読みにになりましたか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,661)				
1	よく読んだ	15.8%	4	気がつかなかった	27.3%
2	ざっと目を通した	43.3%	5	その他	1.2%
3	知っていたが、読まなかった	11.0%	無回答		1.3%

東京都議会議員選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(15.8%)と「ざっと目を通した」(43.3%)の2つを合わせた「読んだ」(59.2%)はほぼ6割となっている。一方、「知っていたが、読まなかった」(11.0%)は1割を超え、「気がつかなかった」(27.3%)は3割近くとなっている。



「選挙公報」の閲読状況－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「読んだ」は男性の方が女性より4ポイント高く、6割を超えている。

性別×年齢でみると、「読んだ」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、男性70歳以上でほぼ8割、女性60～69歳で7割を超えている。一方、「気がつかなかった」は男女とも18～29歳で5割を超えている。

